

シラバス

2022年度
理学療法学科

学校法人 医療創生大学
千葉・柏リハビリテーション学院

シラバス (Syllabus) について

シラバスとは学習計画のことであり、個別講義の受講に関する情報（概要、到達目標、学習内容・方法、評価の方法）が全て盛り込まれている。

シラバスを利用する目的として、

- ①学生が講義の流れを理解し、円滑に授業を受けられる。
- ②教員は学生に対して円滑に授業を進行できる。

以上のために利用され、授業計画の進捗状況と、学生が目標を達成し、学習効果をあげているかを教員だけでなく学生の両者がその状況を総括できるものである。また、シラバスを介して学生と教員間の互いのコミュニケーションのツールとして活用できるものである。

学生はシラバスを通読し、常に携帯するように心がけてください。そして充実した学生生活を送るため、また効率良い学習のために大いに役立ててください。

I. 千葉・柏リハビリテーション学院の教育理念

葵会グループの「治す」と「防ぐ」を高いレベルで両立する進化した医療を提供することを踏まえ「健康でかけがえのないその人らしい人生を尊重する」ことを教育理念とした教育を実践する。「その人らしい人生」とは、その人の人格を尊重することのみならず、唯一無二のかけがえのない健康な人生そのものを尊重することである。

葵会グループの理念に基づいた教育を実践するとは、理学療法、作業療法に必要な知識・技術・態度を得し、他者に対する暖かいまなざしを持ち「ケアリング」と「コーチング」を追求する高い倫理観を持った専門医療技術者を育てることである。さらに、理学療法士・作業療法士という職業を通して、学修者の「アイデンティティ」形成が深められ、それが職業観に結びつくような教育を実践することである。

II. 教育目的・教育目標

教育目的

科学的根拠に基づき、主体的に考え、実践できる専門医療技術者の育成のために、理学療法・作業療法に関する理論および技術を教授する。そして、専門医療技術者としての誇りと自覚を持ち、葵会グループ・地域社会に広く貢献できる専門技術者を育成することを目的とする。

教育目標

- 1 生命の尊厳を基盤とし、理学療法・作業療法の対象を身体的・精神的・社会的な側面を持つ統合体としての人間を幅広く理解する能力を養う。
- 2 対象の能力障害を科学的根拠に基づいて判断し 理学療法・作業療法を実践できる能力を養う。
- 3 自己洞察ができ、他者に対し、深い愛情とケアリングができる人間関係を営む能力を養う。
- 4 進展する医療や社会のニーズに対応した臨床的観察力・分析力を活用し、治療計画立案能力を養う。
- 5 保健・医療・福祉チームの一員として、理学療法・作業療法の役割と責任を果たし、他職種と協同・調整する能力を養う。
- 6 専門医療技術者を目指し、倫理観を培うとともに自己教育力を養う。

III. 学科別教育目的・教育目標 (理学療法学科)

- 1 生命の尊厳を基盤とし、理学療法の対象を身体的・精神的・社会的な側面を持つ統合体としての人間を幅広く理解する役割を養う。
- 2 対象の能力障害を科学的根拠に基づいて判断し、理学療法を実践できる能力を養う。
- 3 自己洞察ができ、他者に対し、深い愛情とケアリングができる人間関係を営む能力を養う。

理学療法学科 教育課程表

区分	教育内容	規定 単位	科目名	授業形態	1年次			2年次			3年次			合計	
					時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	履修 単位数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	14	人間関係とコミュニケーション	講義	30	15	2							30	2
			臨床コミュニケーション論	講義				30	15	2				30	2
			自然科学概論	講義	30	15	2							30	2
			医学情報処理	講義	30	15	2							30	2
			保健体育	講義	30	15	2							30	2
			医学英語	講義	30	15	2							30	2
			心理学	講義	30	15	2							30	2
			小計		180		12	30		2				210	14
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	12	解剖学	講義・演習	120	60	4							120	4
			生理学	講義・演習	120	60	4							120	4
			生理学演習	演習	45	23	1							45	1
			運動学Ⅰ	講義・演習	30	15	1							30	1
			運動学Ⅱ	講義・演習	60	30	2							60	2
			臨床運動学	演習				45	23	1				45	1
			小計		375		12	45		1				420	13
	疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進	14	病理学	講義	30	15	1							30	1
			臨床心理学	講義	15	8	1							15	1
			内科学	講義・演習	30	15	1							30	1
			整形外科	講義・演習	30	15	1							30	1
			神経内科学	講義・演習	30	15	1							30	1
			精神医学	講義	15	8	1							15	1
			小児科学	講義	15	8	1							15	1
			臨床医学と画像診断	講義・演習	30	15	1							30	1
			老年医学	講義・演習				30	15	1				30	1
			リハビリテーション医学	講義	15	8	1							15	1
			人体と薬理	講義	15	8	1							15	1
			予防医学と公衆衛生	講義	30	15	1							30	1
			救命救急の基礎	講義	15	8	1							15	1
			人体と栄養	講義	15	8	1							15	1
			小計		285		13	30		1				315	14
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	4	リハビリテーション概論	講義	30	15	1							30	1
			職業関連リハビリテーション学	講義	15	8	1							15	1
			地域マネジメント論	講義				15	8	1				15	1
			多職種連携演習	演習	45	23	1							45	1
			小計		90		3	15		1				105	4
専門分野	基礎理学療法学	6	障害評価学Ⅰ	講義				30	15	1				30	1
			障害評価学Ⅱ	講義				30	15	1				30	1
			基礎理学療法学	講義	30	15	2							30	2
			運動療法学総論Ⅰ	講義	30	15	1							30	1
			運動療法学総論Ⅱ	講義				30	15	1				30	1
			小計		60		3	90		3				150	6

理学療法学科 教育課程表

区分	教育内容	規定 単位	科目名	授業形態	1年次			2年次			3年次			合計	
					時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	履修 単位数
専門 分野	理学療法評価学	6	理学療法評価学Ⅰ	講義	60	30	2							60	2
			理学療法評価学Ⅱ	講義	60	30	2							60	2
			理学療法評価学Ⅲ	講義				60	30	2				60	2
			理学療法画像評価学	講義				15	8	1				15	1
			小計		120		4	75		3				195	7
	理学療法管理学	2	理学療法管理学	講義							30	15	2	30	2
			小計							30		2	30	2	
	理学療法治療学	20	運動療法治療学	講義							30	15	1	30	1
			物理療法治療学	講義				15	8	1				15	1
			物理療法治療学演習	演習				45	23	1				45	1
			義肢装具学	講義				30	15	1				30	1
			義肢装具学演習	演習				45	23	1				45	1
			日常生活動作治療学	講義				30	15	1				30	1
			中枢神経疾患理学療法治療学Ⅰ	講義				60	30	2				60	2
			中枢神経疾患理学療法治療学Ⅱ	講義				30	15	1				30	1
			骨・関節疾患理学療法治療学	講義				60	30	2				60	2
			内部障害・呼吸器理学療法治療学	講義				30	15	1				30	1
			内部障害・呼吸器理学療法治療学演習	演習				45	23	1				45	1
			小児疾患理学療法治療学	講義				30	15	1				30	1
			脊髄損傷理学療法治療学	講義				30	15	1				30	1
			スポーツ理学療法学	講義				30	15	1				30	1
			総合理学療法学Ⅰ	講義	30	15	1							30	1
			総合理学療法学Ⅱ	講義				60	30	2				60	2
			理学療法治療学研究	講義							15	8	1	15	1
			小計		30		1	540		17	45		2	615	20
	地域理学療法学	3	生活環境論	講義				30	15	1				30	1
			地域理学療法学	講義	30	15	1							30	1
			地域理学療法演習	演習				45	23	1				45	1
			小計		30		1	75		2				105	3
	臨床実習	20	見学実習	実習	45		1							45	1
			検査実習	実習				135		3				135	3
			評価実習	実習				180		4				180	4
			総合臨床実習Ⅰ	実習							360		8	360	8
			総合臨床実習Ⅱ	実習							360		8	360	8
			小計		45		1	315		7	720		16	1080	24
	理学療法学特論	3	理学療法学特論Ⅰ	演習	45	23	1							45	1
			理学療法学特論Ⅱ	演習				45	23	1				45	1
			理学療法学特論Ⅲ	講義							30	15	1	30	1
			小計		45		1	45		1	30		1	120	3
合計		104	合計		1260		51	1260		38	825		21	3345	110

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	I 基礎分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解
	14単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人間関係とコミュニケーション		講義	後期	PT1年	2単位	30時間	田邊康二
教 育 目 標	【一般目標】 医療スタッフとしての適性や態度について考え、今後の実習に備える。						
	【行動目標】 1. 医療スタッフに求められる接遇を理解し、実施できる。 2. 丁寧な話し方で受け答えができる。 3. 情報の管理について理解する。						
成績評価方法	定期試験にて総合的に判断する予定である。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション、医療人としての基本①：身だしなみについて						田邊康二
2	医療人としての基本②：人間関係の重要性						
3	医療人としての基本③：医療人としての振る舞い						
4	医療人としての基本④：職場のルール						
5	患者の接遇①：接遇の基本						
6	患者の接遇②：接遇の実践						
7	敬語の使い方①：正しい姿勢						
8	敬語の使い方②：言葉の使い方、話し方						
9	電話対応①：電話の受け答えについて						
10	電話対応②：〃						
11	院内での対応①：理学療法士の行動・仕事内容とは						
12	院内での対応②：〃						
13	院内での対応③：院内で必要となる接遇とは						
14	院内での対応④：〃						
15	個人情報保護法①：情報の扱いについて						
16	実習後の対応①：礼状の書き方、まとめ						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 ・後期の後半に行われる見学実習に活かせるよう学習を深めておくこと。 ・スマホやPC（iPadも含む）は許可がある場合以外に本科目の授業中は利用しないこと。 ・授業中に教員の指示に従わない場合は退出を指示する場合がある。							
テキスト ・必要に応じて資料を配布する。							
参考書 ・患者対応マナーBOOK／深堀幸次 著／医学通信社							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床コミュニケーション論		講義	前期	PT2年	2単位	30時間	淵橋潤也
教 育 目 標	【一般目標】 臨床の現場における、理学療法士としてのあるべき姿を学ぶ。						
	【行動目標】 1. 人間としての基本的な振る舞いを知る。 2. 臨床現場のコミュニケーションを学び、アウトプットできる場を作る。 3. 臨床現場のコミュニケーションについて議論を重ね、全員で問題を解決していく。						
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物で総合的に評価する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション／総論						淵橋潤也
2							
3	接遇／社会人としての振る舞い						
4							
5	コミュニケーション技法①／演習						
6							
7	コミュニケーション技法②／演習						
8							
9	コミュニケーション技法③／演習						
10							
11	ケーススタディ①						
12							
13	ケーススタディ②						
14							
15	グループ発表						
16							
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 コミュニケーション能力は必須スキルです。しっかりと身につけましょう。							
テキスト 講義内配布プリント							
参考書 臨床技能とOSCEなど各種教科書から抜粋							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
自然科学概論		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	伊藤栄司
教 育 目 標	【一般目標】 科学的知識の基礎となる自然科学を概要を理解できる。 人体の運動に起こる物理現象についてはリハビリテーションの基礎となるため、その仕組み、関係を重点的に理解できる。						
	【行動目標】 1. 自然科学に必要な単位を表記できる。 2. 運動・仕事・力の関係について説明できる。 3. 物理現象について説明できる。 4. 物理現象を算出する計算式を適切に選択できる。 5. 物理現象を算出する計算から適切な答えを導き出せる。						
成績評価方法	定期試験、小テストなどにより総合的に評価する。						
回	内容						担当者
1	講義内容説明, 自然科学基礎知識（1）						伊藤栄司
2	自然科学基礎知識（2）						
3	バイオメカニクス「運動（1）速度・加速度・法則」						
4	バイオメカニクス「運動（2）仕事・運動量」						
5	バイオメカニクス「運動（3）総合」						
6	バイオメカニクス「力（1）種類・つり合い」						
7	バイオメカニクス「力（2）モーメント」						
8	バイオメカニクス「力（3）総合」						
9	バイオメカニクス「てこ（1）基本」						
10	バイオメカニクス「てこ（2）滑車・輪軸」						
11	バイオメカニクス「てこ（3）総合」						
12	バイオメカニクス「仕事（1）基本・エネルギー」						
13	バイオメカニクス「仕事（2）エネルギーの保存」						
14	バイオメカニクス「仕事（3）総合」						
15	バイオメカニクス「総合」						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 講義内で演習を毎回実施します。分からないことは授業前、授業後等に必ず対応します。 「諦めないこと、分からないままにしないこと」を意識してください。							
テキスト プリントの配布							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
医学情報処理		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	水野朝美
教 育 目 標	【一般目標】 高度情報化社会におけるITモラル、ITリテラシーの必要性を実例とともに解説し、知識の向上を目指すし、社会人としての行動規範を示す。						
	【行動目標】 PC及び、タブレットの基本操作と、情報を効率的に取得する方法を学習する。						
成績評価方法	課題に基づいた発表作品と、最終実技試験によって総合的に判断する。						
回	内容						担当者
1	学校生活での必要なICTとは						星野光宏
2	C－learningとは						
3	Microsoft Teamsとは						
4	実習時におけるICTの取り扱いとレポート作成概要						
5	ICT環境の歴史と現在について（1章理解と活用）						水野朝美
6	コンピュータと情報倫理～タブレットの基本的な操作						
7	PCの基本操作と、効率的なタイピングについて（Word導入）						
8	タブレットによるWord操作（ビジネス文書作成、レポート作成 など）						
9	〃（課題を出し、操作確認）						
10	タブレットによるExcel操作（表作成とグラフ作成 など）						
11	〃（課題を出し、操作確認）						
12	さまざまな関数や更なるExcelの機能の紹介						
13	タブレットによるPowerPoint操作（プレゼンの重点項目とスライド作成）						
14	テーマによるプレゼン資料の作成（効率的なスライドの作成と効果について）						
15	プレゼン資料の発表、Officeの相互連携について（総まとめ）						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 今まで小中高で学んできた基礎の総復習をするとともに、社会人としての情報端末の活用を身に付けてください。基本的には、テキストに沿って授業を行い、総合的な課題作成をお願いします。							
テキスト 大学一年生のための情報リテラシー（丸善出版）							
参考書 IT資格取得などの相談があれば、参考資料をお渡しします。 課題は随時用意いたしますので、持参の必要はありません。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
保健体育		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	大木祥太
教 育 目 標	【一般目標】 - 自己や他者の健康増進のための適切な運動方法を身に着ける。 - 実技を通して、他者とのコミュニケーションを図ることで社会性を身に着ける。 【行動目標】 - 積極的に授業に参加すること。						
成績評価方法	授業参画とリアクションペーパーによって評価する。 授業参画は出席によって評価する。 リアクションペーパーは座学後に実施し、その内容によって評価する。 これらの合計点は100点とし、60点以上で合格とする。 出席が3分の2未満の場合は点数に関わらず不合格とする。 【割合】 授業参画80% リアクションペーパー20%						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション						大木祥太
2	座学:有酸素運動・無酸素運動						
3	座学:運動強度の設定、運動方法の工夫						
4							
5	座学:筋肉の特性①、屋内実技						
6							
7	座学:筋肉の特性②、屋内実技 屋外実技が可能な場合:レクリエーション						
8							
9	座学:筋力トレーニング、屋内実技 屋外実技が可能な場合:フットサル						
10							
11	座学:有酸素トレーニング、屋内実技 屋外実技が可能な場合:フットサル						
12							
13	座学:コンディショニング、屋内実技 屋外実技が可能な場合:バレーボール						
14							
15	座学:最新のスポーツ科学の紹介、屋内実技 屋外実技が可能な場合:バレーボール						
16							
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 新型コロナウイルスの影響で体育施設の使用の見通しが立たないため、4月は座学と講堂内で実施可能な運動を行います。5月以降は体育施設が使用できる場合は屋外実技を行います。使用できない場合は座学と屋内実技を引き続き行います。何らかの変更が生じた場合、授業内で随時連絡します。							
テキスト なし							
参考書 なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
医学英語		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	佐藤喬
教 育 目 標	【一般目標】 現代の若者には、英語の素養は不可欠と思うが、例年英語嫌いの人が多い。一人でも多く、英語のセンスを身につけ、英語が好きになる人を育てたい。 【行動目標】 英語の基本は語順の理解であると考えているので、並べかえに力を入れる。併せて、医学、リハビリ関連の表現、用語を覚える。						
成績評価方法	定期試験及び小テストの得点で総合的に評価する。						
回	内容						担当者
1	並べかえ500問＋身体の単語						佐藤喬
2	並べかえ500問＋リハビリ用語						
3	並べかえ500問＋症状の表現						
4	並べかえ500問＋リハビリ動作の表現						
5	並べかえ500問＋病名用語						
6	並べかえ500問＋患者応接用例						
7	並べかえ500問＋医学関連基本単語						
8	並べかえ500問＋英文レポートの作り方						
9	並べかえ500問＋身体の単語（2回目）						
10	並べかえ500問＋リハビリ用語（2回目）						
11	並べかえ500問＋症状の表現（2回目）						
12	並べかえ500問＋リハビリ動作の表現（2回目）						
13	並べかえ500問＋病名用語（2回目）						
14	並べかえ500問＋応接表現（2回目）						
15	並べかえ500問＋英文レポート（2回目）						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 英語は世界の共通語として定着している。英語を身につけ、グローバル社会に適応できる職業人になってほしい。							
テキスト 自作プリントを配布する。							
参考書 随時案内する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
心理学		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	松平友見
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者として必要な、人間の心理的機能や特性に関する基本的知識を習得する。						
	【行動目標】 1. 認知機能の種類と特徴を理解し、説明することができる。 2. 認知機能、パーソナリティの測定方法を理解し、説明することができる。 3. 心理的・精神的な障害の概略を理解し、説明することができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	心理学概論 ― 認知心理学を中心に ―						松平友見
2	感覚						
3	知覚						
4	記憶①						
5	記憶②						
6	知能①						
7	知能②						
8	学習						
9	復習テスト（解答と解説）						
10	パーソナリティ①						
11	パーソナリティ②						
12	脳の構造，機能						
13	高次脳機能障害						
14	発達障害						
15	障害受容						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 人間の認知機能（見る，聞く，考える，記憶するなど）の仕組みとともに、それが障害された場合にはどのような症状が現れるのかをわかりやすく学びます。							
テキスト はじめて出会う心理学 第3版 長谷川寿一ほか著（有斐閣アルマ，2020）							
参考書 必要に応じ適宜紹介する。							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	II 専門基礎分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	人体の構造と機能及び心身の発達
	12単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
解剖学		講義・演習	通年 (前期)	PT1年	4単位	120時間	瀧本章平
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「構造」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な骨・筋を中心として形態的特徴を習得することを目標とする。						
	【行動目標】 ・人体の基本構造について理解できる。 ・骨の解剖学的名称を述べることができる。 ・筋の解剖学的名称を述べることができる。 ・筋の収縮による作用および起始・停止を説明できる。						
成績評価方法	定期試験及び提出物等で総合的に判断する。						
回	内容						担当者
1	解剖学総論、解剖学とは						瀧本章平
2							
3	細胞と組織						
4							
5	骨の基本構造						
6							
7	上肢の骨						
8							
9	下肢の骨						
10							
11	胸郭の骨						
12							
13	脊柱の骨						
14							
15	頭蓋の骨						
16							
17	頭蓋・脊柱の関節						
18							
19	上肢の関節、下肢の関節						
20							
21	筋の基本構造						
22							
23	上肢の筋						
24							
25	下肢の筋						
26							
27	体幹の筋						
28							
29	頭頸部の筋						
30							
履修者へのコメント ※30時間以上の自己学習を要する。 解剖学は医学の基礎となる科目です。解剖学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連していきます。多くの名称を覚え、理解しなくてはならないので教科書を中心にスケッチなどもしてより理解を深めていきましょう。							
テキスト ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 (医学書院) ・プロメテウス解剖学 コア アトラス 第3版 (医学書院)							
参考書 ・標準解剖学 第1版 (医学書院)							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員	
解剖学		講義・演習	通年 (後期)	PT1年	4単位	120時間	瀧本章平	
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「構造」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な神経・感覚器・内臓を中心として形態的特徴を習得することを目標とする。							
	【行動目標】 ・神経を中枢と末梢に分けることができる。 ・神経の走行を述べることができる。 ・感覚器系の名称を説明できる。 ・内臓（循環器・呼吸器・消化器など）を説明することができる。							
成績 評価 方法	定期試験及び提出物等で総合的に判断する。							
回	内 容						担当者	
31 32	神経細胞の分類(中枢神経と末梢神経の違い)						瀧本章平	
33 34	中枢神経①（大脳）							
35 36	中枢神経②（大脳基底核）							
37 38	中枢神経③（大脳辺縁系/間脳）							
39 40	中枢神経④（脳幹）							
41 42	中枢神経⑤（脊髄）							
43 44	末梢神経①（脳神経）							
45 46	末梢神経②（頸神経叢/腕神経叢）							
47 48	末梢神経③（胸神経・腰神経叢）							
49 50	末梢神経④（仙骨神経叢/尾骨神経叢）							
51 52	末梢神経⑤(自律神経)							
53 54	内臓学①（循環器/血管走行）							
55 56	内臓学②（呼吸器/血管走行）							
57 58	内臓学③（消化器/血管走行）							
59 60	内臓学④（泌尿器/血管走行）							
履修者へのコメント ※30時間以上の自己学習を要する。 解剖学は医学の基礎となる科目です。解剖学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連していきます。多くの名称を覚え、理解しなくてはならないので教科書を中心にスケッチなどもしてより理解を深めていきましょう。								
テキスト ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版（医学書院） ・プロメテウス解剖学 コア アトラス 第3版（医学書院）								
参考書 ・標準解剖学 第1版(医学書院)								

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員						
生理学		講義・演習	通年 (前期)	PT1年	4単位	120時間	瀧本章平						
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「機能」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な生理学的作用を中心として機能的特徴を習得することを目標とする。												
	【行動目標】 ・人体の機能について学ぶ。 ・血液の働きについて学び、体液と血液の違いについて学ぶ。 ・遺伝子とDNAの違いについて学ぶ。 ・内臓機能（循環器・呼吸器）を説明することができる。												
成績評価方法	定期試験及び提出物等で総合的に判断する。												
回	内 容						担当者						
1	人体の機能とは						瀧本章平						
2													
3								細胞の働き					
4													
5								遺伝子とDNA					
6													
7								赤血球の働きとその破壊、血液型					
8													
9								血小板の働き、白血球の種類					
10													
11								生体防御機構と免疫					
12													
13								血液凝固反応、カスケード反応					
14													
15								体液の循環、酸塩基平衡					
16													
17								骨の生理					
18													
19								骨格筋の生理					
20													
21	筋の収縮機構、 $\alpha-\gamma$ 連関												
22													
23	循環器、心臓												
24													
25	刺激伝導系、血圧その他循環の生理												
26													
27	呼吸器系												
28													
29	脳波と睡眠												
30													
履修者へのコメント ※30時間以上の自己学習を要する。 生理学は医学の基礎となる科目です。生理学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連してきます。覚えることはもちろんですが、「理解する」ことが重要になってきます。わからないことは曖昧にせず、すぐに質問してください。													
テキスト ・標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版（医学書院）													
参考書 ・標準生理学 第7版（医学書院） ・生理学テキスト 第8版（文光堂）													

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員	
生理学		講義・演習	通年 (後期)	PT1年	4単位	120時間	瀧本章平	
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「機能」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な生理学的作用を中心として機能的特徴を習得することを目標とする。							
	【行動目標】 ・各内臓機能について学ぶ。 ・消化器系の酵素や吸収方法について学ぶ。 ・内分泌系の作用のみならず過剰症や低下症について学ぶ。 ・神経の伝導について学ぶ。							
成績評価方法	定期試験及び提出物等で総合的に判断する。							
回	内 容						担当者	
31 32	消化器系の全容						瀧本章平	
33 34	口～肛門までの消化・吸収							
35 36	肝臓、胆のう、膵臓の働き							
37 38	泌尿器系、尿の生成							
39 40	内分泌系①(視床下部 - 下垂体系)							
41 42	内分泌系②(甲状腺/副甲状腺)							
43 44	内分泌系③ (副腎/腎)							
45 46	内分泌系④(生殖器)							
47 48	内分泌系⑤(血圧/造血など)							
49 50	静止膜電位（脱分極と再分極）と神経伝達物質							
51 52	神経の伝導路/自律神経の作用							
53 54	特殊感覚①							
55 56	特殊感覚②							
57 58	生殖器系							
59 60	生殖器系							
履修者へのコメント ※30時間以上の自己学習を要する。 生理学は医学の基礎となる科目です。生理学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連してきます。覚えることはもちろんですが、「理解する」ことが重要になってきます。わからないことは曖昧にせず、すぐに質問してください。								
テキスト ・標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版（医学書院）								
参考書 ・標準生理学 第7版（医学書院） ・生理学テキスト 第8版（文光堂）								

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生理学演習		演習	後期	PT1年	1単位	45時間	田崎雅和
教 育 目 標	【一般目標】 生理学は生命現象とその背後にある法則や概念を物理的な手法で追究する学問である。本実習では、生体機能の機序を実験を通して理解する。						
	【行動目標】 神経系機能、心・骨格筋機能、感覚器機能、血液機能、唾液・嚥下機能の基礎的な事項を理解し、説明できる。						
成績評価方法	レポート内容、実習態度、客観筆記試験にて総括的に評価する。						
回	内容						担当者
1	田崎雅和						
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
履修者へのコメント ※11.5時間以上の自己学習を要する。 ・将来の医療人としての態度と技術を、実習を通して涵養してほしい。 ・実習を行う事で、基礎的な医療技術を学んでほしい。							
テキスト ・生理学講義で使用している教科書							
参考書 ・生理学 真島英信 文光堂 ・ヒューマンボディ からだの不思議がわかる解剖生理学 エルゼビア・ジャパン							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学Ⅰ		講義・演習	前期	PT1年	1単位	30時間	田邊康二
教 育 目 標	【一般目標】 解剖・生理学などの知識を基盤に、生体のメカニズムを理解し、ヒトの運動・動作を分析・測定するために必要な知識や学ぶ姿勢を養う。 【行動目標】 1. 身体関節運動に関するテコについて説明ができる。 2. 運動の中枢神経機構について説明ができる。 3. 四肢、体幹の運動学的特徴を説明し、場所を示すことができる。 4. 基本的な動作の特徴を説明できる。						
	成績評価方法	定期試験にて総合的に判断する予定である。					
回	内容						担当者
1	オリエンテーション、運動学とは①：運動学と理学療法						田邊康二
2	生体の構造と機能①：骨の構造と機能						
3	生体の構造と機能②：関節の構造と機能						
4	生体の構造と機能②：身体運動の面と軸						
5	〃 ②：上肢の運動方向						
6	〃 ②：体幹の運動方向						
7	〃 ②：下肢の運動方向						
8	生体の構造と機能③：腱・靱帯の構造と機能						
9	生体の構造と機能④：骨格筋の構造と機能						
10	生体の構造と機能⑤：筋収縮様態と筋の働き						
11	生体の構造と機能⑥：神経の構造と興奮						
12	生体の構造と機能⑦：運動の中枢神経機構						
13	生体の構造と機能⑧：神経筋骨格系の機能						
14	運動学習について						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 ・関連する分野の解剖学および生理学の予習をした上で授業に参加すること。・授業後は、授業の内容および関連する分野の復習を行うこと。・授業の進行によって講義内容および実技内容、順序が変更になることがある。・スマホやPC（iPadも含む）は許可がある場合以外に本科目の授業中は利用しないこと。・授業中に教員の指示に従わない場合は退出を指示する場合がある。							
テキスト ・基礎運動学 第6版 補訂（医歯薬出版） ・必要に応じて資料を配布する。							
参考書 ・筋骨格系のキネシオロジー（原著第3版）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学Ⅱ		講義・演習	通年 (前期)	PT1年	2単位	60時間	渡邊司
教 育 目 標	【一般目標】 運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり、理学療法士の理論的基盤をなす重要な基礎科目である。本講義では、1. 身体運動に関する基礎的知識、2. 運動学に必要な力学、3. 筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係、4. 姿勢保持と歩行動作の特徴について理解することを目指す。 【行動目標】 ・筋骨格系の構造・機能・名称を説明することが出来る。 ・基本肢位および正常歩行を観察し、記述することが出来る。 ・図表から対象者の動作を推測出来る。						
成 績 評 価 方 法	【評価対象】 ・中間試験・後期定期試験(筆記) ・提出課題 【評価基準】 ・中間試験、提出課題と定期試験を総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、力学の基礎・用語説明						渡邊司
2	生体力学の基礎①						
3	生体力学の基礎②						
4	肩複合体の運動学①						
5	肩複合体の運動学②						
6	運動学実習①肩甲上腕リズム						
7	肘・前腕複合体の運動学①						
8	肘・前腕複合体の運動学②						
9	手関節・手指の運動学①						
10	手関節・手指の運動学②						
11	股関節の運動学①						
12	股関節の運動学②						
13	膝関節の運動学①						
14	膝関節の運動学②						
15	歩行周期概要						
16	前期まとめ						
履修者へのコメント ※15時間以上の自己学習を要する。 ・運動学とは、身体運動に関する諸問題に関して解剖学・生理学・力学・心理学的観点から問題を究明していく学問です。運動学を理解するために、解剖学・生理学の知識は常に復習するように取り組んでください。なるべく多く演習を取り入れながら進めていきます。・授業の進行具合により、授業内容を変更する場合は事前にお知らせします。							
テキスト ・基礎運動学 第6版 補訂 (医歯薬出版) ・筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 (ELSEVIER)							
参考書 ・15レクチャーシリーズ理学療法学・作業療法学テキスト運動学/運動学実習 ※その他の参考資料は授業内で紹介します。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学Ⅱ		講義・演習	通年 (後期)	PT1年	2単位	60時間	渡邊司
教 育 目 標	【一般目標】 運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり、理学療法士の理論的基盤をなす重要な基礎科目である。本講義では、1. 身体運動に関する基礎的知識、2. 運動学に必要な力学、3. 筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係、4. 姿勢保持と歩行動作の特徴について理解することを目指す。 【行動目標】 ・筋骨格系の構造・機能・名称を説明することが出来る。 ・基本肢位および正常歩行を観察し、記述することが出来る。 ・図表から対象者の動作を推測出来る。						
成 績 評 価 方 法	【評価対象】 ・中間試験・後期定期試験(筆記) ・提出課題 【評価基準】 ・中間試験、提出課題と定期試験を総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
17	足関節の運動学①						渡邊司
18	足関節の運動学②						
19	脊柱・体幹の運動学①						
20	脊柱・体幹の運動学②						
21	呼吸運動、顔面と頭部の運動学						
22	立位姿勢						
23	運動学実習②アライメント評価						
24	起立・着座動作						
25	運動学実習③立ち上がり動作						
26	正常歩行①歩行周期						
27	正常歩行②ロッカー機能について						
28	正常歩行③外的・内的モーメント						
29	異常歩行						
30	階段昇降						
31	バランス評価						
32	後期まとめ						
履修者へのコメント ※15時間以上の自己学習を要する。 ・運動学とは、身体運動に関する諸問題に関して解剖学・生理学・力学・心理学的観点から問題を究明していく学問です。運動学を理解するために、解剖学・生理学の知識は常に復習するように取り組んでください。なるべく多く演習を取り入れながら進めていきます。・授業の進行具合により、授業内容を変更する場合は事前にお知らせします。							
テキスト ・基礎運動学 第6版 補訂（医歯薬出版） ・筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版（ELSEVIER）							
参考書 ・15レクチャーシリーズ理学療法学・作業療法学テキスト運動学/運動学実習 ※その他の参考資料は授業内で紹介します。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床運動学		演習	前期	PT2年	1単位	45時間	長岡洋平
教 育 目 標	【一般目標】 ・ 健常成人の基本動作（寝返り・起き上がり・立ち上がり・歩行）のメカニズムを理解する ・ 代表的疾患における姿勢や動作の特徴を知る 【行動目標】 ・ 正常動作を自らの身体で体験し、再現することが出来る ・ 基本動作の観察ポイントを挙げることが出来る ・ 基本動作の相分けを行い、各相毎に動的アライメントの描画と運動学的記述が出来る						
	成績評価方法	定期試験（筆記）、課題レポート（提出物）で総合的に判定する					
回	内容						担当者
1	理学療法士における動作分析の位置づけ						長岡洋平
2	動作分析の進め方						
3	姿勢の評価　－ 臥位・坐位・立位 －						
4	基本動作と姿勢観察						
5	寝返り動作　－ 健常成人の動作理解 －						
6	寝返り動作　－ 動作観察と相分け －						
7	起き上がり動作　－ 健常成人の動作理解 －						
8	起き上がり動作　－ 動作観察と相分け －						
9	立ち上がり動作　－ 健常成人の動作理解 －						
10	立ち上がり動作　－ 動作観察と相分け －						
11	正常歩行の理解						
12	基本動作のまとめ						
13	バイオメカニクスの基礎						
14	バランス能力						
15	片麻痺患者の姿勢と動作の特徴						
16	運動器疾患の姿勢と動作の特徴						
17	パーキンソン病の姿勢と動作の特徴						
18	運動失調症の姿勢と動作の特徴						
19	高齢者の姿勢と動作の特徴						
20	人工関節・関節リウマチの姿勢と動作の特徴						
21	歩行分析演習①						
22	歩行分析演習②						
23	発表会						
24	授業のまとめ						
履修者へのコメント ※11.5時間以上の自己学習を要する。 動作分析は理学療法士にとって重要なスキルの1つです。実技や演習を多く取り入れて、健常成人の基本動作を理解していただきたいと思います。また、授業内では患者動画も多く提示し、疾患特有の異常動作などの理解も深めていきます。							
テキスト 標準理学療法学　臨床動作分析（医学書院）							
参考書 ・ 動作分析　臨床活用講座―バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践　メジカルビュー社 ・ 筋骨格系のキネシオロジー　原著第2版　医歯薬出版株式会社							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	II 専門基礎分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
	14単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
病理学		講義	前期	PT1年	1単位	30時間	福井謙二
教 育 目 標	【一般目標】 1. 全身の各臓器に共通な病変を分類し理解する。 2. 疾病の原因と、それによって生じる形態学的な変化を理解し、さらに、どのような機能的障害が引き起こされるかを理解する。 3. 各臓器・系統別に疾病の成り立ちについて理解する。 【行動目標】 1. 疾病の原因について説明できる。2. 先天異常，奇形について説明できる。3. 退行性病変について説明できる。4. 進行性病変について説明できる。5. 循環障害について説明できる。6. 炎症について説明できる。7. 免疫について説明できる。8. 感染症について説明できる。9. 腫瘍について説明できる。10. 死因統計について説明できる。11. 循環器系の疾患について説明できる。12. 血液，造血器系の疾患について説明できる。13. 呼吸器系の疾患について説明できる。14. 消化器系の疾患について説明できる。15. 腎，泌尿器系，生殖器系，乳腺の疾患について説明できる。16. 神経系の疾患について説明できる。17. 運動器系の疾患について説明できる。						
	成績評価方法 定期試験						
回	内 容						担当者
1	病理学の意義．病理診断の方法．病因論．病変の種類						福井謙二
2	先天異常，奇形						
3	退行性病変，代謝障害						
4	進行性病変						
5	循環障害						
6	炎症，免疫						
7	感染症						
8	腫瘍，死因統計						
9	循環器系の疾患						
10	血液，造血器系の疾患						
11	呼吸器系の疾患						
12	消化器系の疾患						
13	腎，泌尿器，生殖器系，乳腺の疾患						
14	神経系の疾患						
15	運動器系の疾患						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 ・病理学の理解を深めるためには，解剖学や生理学などの基礎医学を十分理解することが重要である。 ・テキストは授業で使用する。							
テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 大橋健一，谷澤 徹，藤原正親，柴原純二著 （医学書院）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床心理学		講義	後期	PT1年	1単位	15時間	松平友見
教 育 目 標	【一般目標】 人間の異常心理、その評価および治療技法に関する基本的知識を習得する。						
	【行動目標】 1. 異常心理（精神症状）の種類と特徴を理解し、説明することができる。 2. 心理的アセスメントの方法を理解し、説明することができる。 3. 心理療法・援助技法を理解し、説明することができる。						
成績評価方法	定期試験により評価する。						
回	内容						担当者
1	臨床心理学概論						松平友見
2	異常心理学						
3	心理的アセスメント						
4	精神分析①						
5	精神分析②						
6	認知行動療法①						
7	認知行動療法②						
8	クライアント中心療法						
履修者へのコメント ※4時間以上の自己学習を要する。 心理学(前期)で学んだ知識をもとに、こころの障害や不適応、心理的アセスメント、治療や援助の手法について学びます。							
テキスト よくわかる臨床心理学改訂新版 下山晴彦編著（ミネルヴァ書房、2010）							
参考書 はじめて出会う心理学第3版 長谷川寿一ほか著（有斐閣アルマ、2020）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内科学		講義・演習	後期	PT1年	1単位	30時間	宮下雅史
教 育 目 標	近年のリハビリテーションの考え方は大きく変化してきている。運動障害に対するリハビリテーションが主であったが、精神疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、視覚障害、聴覚障害、がん患者のリハビリと多岐にわたっている。また、リハビリ対象者が高齢化しており、高齢者は何らかの内科疾患を持っていることが多い。そのような患者さんのリハビリに対して内科的疾患の知識は必要不可欠であり、知識をもってリハビリテーションを行うか、またリハビリテーション中の異常事態に対して適切なる判断ができることが求められる。主要疾患について詳細に述べ理解を深めるようにする。						
成績評価方法	定期試験および提出物などを総合的に判断する。						
回	内容						担当者
1	脳・神経系疾患Ⅰ 基礎的知識						宮下雅史
2	脳・神経系疾患Ⅱ 主な疾病と診療						
3	呼吸器疾患Ⅰ 基礎的知識（１）						
4	呼吸器疾患Ⅱ 基礎的知識（２）						
5	呼吸器疾患Ⅲ 主な疾病と診療						
6	循環器疾患Ⅰ 基礎的知識（１）						
7	循環器疾患Ⅱ 基礎的知識（２）						
8	循環器疾患Ⅲ 主な疾病と診療						
9	血液・造血器疾患Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療						
10	消化器疾患Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療						
11	肝臓・胆道・膵疾患Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療						
12	腎疾患Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療						
13	代謝・内分泌疾患Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療						
14	感染症Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療						
15	免疫・アレルギー疾患Ⅰ・Ⅱ 基礎的知識・主な疾病と診療						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 頑張ってください							
テキスト 内科学 第4版（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
整形外科科学		講義・演習	後期	PT1年	1単位	30時間	山下晶子
教 育 目 標	【一般目標】 人体の運動器器官にかかわる疾患の診断と治療, リハビリテーションについて学習する。 【行動目標】 総論として骨・関節, 神経・筋肉の機能解剖、病態および運動評価や検査について学び, 各論として各疾病疾患（炎症、内分泌性、退行性、先天性、循環器、神経・筋肉、脊椎）と外傷性疾患（骨折、脊髄損傷、外傷性疾患、スポーツ障害、熱傷、切断および離断）について学ぶ。						
成績評価方法	期末試験、提出物で総合的に評価する。						
回	内容						担当者
1	整形外科基礎知識 1 : 骨・関節						山下晶子
2	整形外科基礎知識 2 : 神経、骨・関節・神経の病態生理						
3	運動器の評価						
4	運動器の検査法						
5	一般的整形外科的治療法：保存療法/手術療法/理学・作業療法						
6	炎症性疾患：感染性・非感染性疾患・膠原病						
7	代謝・内分泌性疾患、退行性疾患						
8	先天性骨・関節疾患、循環障害と壊死性疾患						
9	骨・軟部腫瘍、神経・筋疾患						
10	骨折						
11	脊椎の病態						
12	脊髄損傷、関節における外傷性疾患						
13	末梢性神経における外傷性疾患						
14	スポーツ障害						
15	熱傷・切断および離断						
16	まとめ						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 復習を行い、毎回の事項を理解してください。不十分な点は教科書を参考に質問してください。							
テキスト 標準整形外科学 第14版（医学書院）							
参考書 ・授業内で資料を配布します。 ・解剖学の教科書を参考にしてください。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
神経内科学		講義・演習	後期	PT1年	1単位	30時間	山崎洋次
教 育 目 標	リハビリテーションの対象として神経疾患の頻度は最も高く、リハビリテーションスタッフやそれを目指す学生にとって重要な分野である。神経内科学の講義では、神経解剖・神経生理などの基礎医学を学習したあと、それに基づいた神経症候学を学習する。その後、神経内科学各論では、神経内科のほか脳外科・小児神経科などであつかう神経疾患全般について学習する。						
成 績 評 価 方 法	中間試験（40％）と定期試験（60％）を合算して判定する						
回	内 容						担当者
1	神経内科学総論 神経解剖学①						山崎洋次
2	神経内科学総論 神経解剖学②						
3	神経内科学総論 神経診断学①：主要症候①						
4	神経内科学総論 神経診断学②：主要症候②						
5	神経症候学総論 神経診断学③：検査法						
6	神経内科学各論 脳血管障害						
7	中間総括（中間試験実施）						
8	神経内科学各論 変性疾患						
9	神経内科学各論 脱髄疾患、末梢神経障害						
10	神経内科学各論 筋疾患・神経筋接合部疾患						
11	神経内科学各論 脳腫瘍、背髄疾患						
12	神経内科学各論 感染性疾患、先天異常						
13	神経内科学各論 代謝・中毒・内科的疾患						
14	神経内科学各論 外傷、自律神経疾患、機能的疾患						
15	神経内科学各論 認知症						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 解剖学・生理学・病理学など基礎医学の習得が不十分であると神経内科学の履修に支障を来すため、これら前期科目の復習を各自おこなってから講義にのぞむこと。履修範囲が多いため、授業中に説明できなかった項目については各自でテキストに目を通すこと。							
テキスト ・病気がみえる⑦「脳・神経」第2版（メディックメディア）							
参考書 ・神経内科学テキスト 改訂第4版 江藤文夫・飯島節 編集（南江堂） ・ベッドサイドの神経の診かた<改訂18版> 田崎義昭ほか著（南山堂）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神医学		講義	後期	PT1年	1単位	15時間	高橋章郎
教 育 目 標	【一般目標】 国家試験合格を念頭に置いて、精神医学全般について基礎事項を学び、各精神疾患を理解・考察する。 【行動目標】 精神疾患を科学的・医学的視点から理解することで、ともすれば陥ってしまうこともある偏見を排除し、公正な視点、及び態度を以て精神疾患罹患者に相対することを目指す。						
	成績評価方法 定期試験の成績にて判定する。						
回	内容						担当者
1	精神医学紹介／気分障害						高橋章郎
2	心身症／統合失調症						
3	老年期精神障害／摂食障害						
4	神経症／睡眠障害						
5	てんかん／人格障害						
6	薬物・アルコール依存症						
7	児童期・青年期の精神障害						
8	試験に向けて総復習						
履修者へのコメント ※4時間以上の自己学習を要する。							
テキスト 標準理学療法学・作業療法学 精神医学 専門基礎分野 第4版（医学書院）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
小児科学		講義	後期	PT1年	1単位	15時間	小島正義
教 育 目 標	【一般目標】 小児の障害を引き起こす主な疾患の原因、病態生理、徴候、診断と治療を学ぶ。						
	【行動目標】 ・疫学、予後について説明できる。 ・病因、症候について説明できる。 ・検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について説明できる。 ・小児の障害を引き起こす一般的疾患について説明できる。 小児に関連する過去の国家試験を解くことができる。						
成績評価方法	定期試験で判定する。						
回	内容						担当者
1	小児科学概論、新生児・未熟児疾患						小島正義
2	先天異常と遺伝病、神経・筋・骨系疾患						
3	循環器疾患、呼吸器疾患						
4	感染症、消化器疾患						
5	内分泌・代謝疾患						
6	血液疾患、免疫						
7	腎・泌尿器疾患、腫瘍疾患						
8	重症心身障害児、まとめ						
履修者へのコメント ※4時間以上の自己学習を要する。 ・パワーポイント資料で講義を進めます。・その都度、関連する過去の国家試験問題の解説も行うため、事前の国試対策としても意識してください。・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、必ず前回授業の資料は持ってきてください。・小テストを行うこともありますので、前回までの授業の復習は行ってください。							
テキスト 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 （医学書院）							
参考書 小児科学は内科学と重複する点も多く、内科学の教科書を参考書として活用することにより、より理解が深まると思います。また、必要に応じて紹介します。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床医学と画像診断		講義・演習	後期	PT1年	1単位	30時間	小島正義
教 育 目 標	【一般目標】 ・リハビリテーションの実践に必要な脳血管疾患・整形疾患等の基礎知識と画像診断に必要な基礎的な知識を身に付けることができる。 【行動目標】 ・脳血管疾患・整形疾患等の基礎的な疾患の概要について説明することができる ・画像診断に関する過去の国家試験を解くことができる。 ・リハビリテーション実践において、画像診断による基礎疾患の予後やリスクについて説明することができる						
	成績評価方法	定期試験で判定する。					
回	内容						担当者
1	画像診断学総論（リハビリになぜ必要なのか？等）						小島正義
2	脳の基本的知識、脳画像（CT・MRI）とその症状①（各スライス）						
3	脳画像とその症状②（各スライス）						
4	脳画像とその症状③（各スライス）						
5	脳画像（CT・MRI）のまとめ①						
6	脳画像（CT・MRI）のまとめ②						
7	脳の血管の診かた						
8	骨・関節の画像の診かた						
9	骨・関節疾患の特徴と画像診断①						
10	骨・関節疾患の特徴と画像診断②						
11	半月板・靱帯等の損傷とスポーツ障害①						
12	半月板・靱帯等の損傷とスポーツ障害②						
13	脊椎・脊髄の画像診断						
14	胸部画像（CT・MRI）、嚥下の診かた						
15	総括						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 ・パワーポイント資料で講義を進めます。 ・その都度、関連する過去の国家試験問題の解説も行うため、事前の国試対策としても意識してください。 ・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、必ず前回授業の資料は持ってきてください。							
テキスト リハビリテーション医療に活かす画像のみかた 第2版 （南江堂）							
参考書 随時、必要に応じて紹介します。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
老年医学		講義・演習	前期	PT2年	1単位	30時間	宮下雅史
教 育 目 標	【一般目標】 老年期における病態、疾患、外傷の特性を知りリハビリテーション専門職としての知識を培う。						
	【行動目標】 1. 老年期障害の現状を知る。 2. チーム医療の中でのリハビリテーションチームの役割を知る。 3. リハビリテーション職としての老年期障害に対する医学的側面から治療・支援できることを知る。						
成績評価方法	最終試験で総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	老年医学とは（ガイダンス、概論）						宮下雅史
2	高齢者の解剖学的、生理学的特徴						
3	循環器疾患 1						
4	循環器疾患 2						
5	呼吸器疾患						
6	復習（確認テスト）						
7	神経疾患 1						
8	神経疾患 2						
9	認知症 1						
10	認知症 2						
11	復習（確認テスト）						
12	整形外科疾患						
13	高齢者に多いその他の疾患						
14	復習（循環器・神経系）						
15	総復習（確認テスト）						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 頑張ってください							
テキスト 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第5版（医学書院）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
リハビリテーション医学		講義	後期	PT1年	1単位	15時間	山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 代表的な病態、疾患などにより生じた機能障害を理解し、残存した障害を克服しようとする人々の活動を支援する医学分野の基本を知る。						
	【行動目標】 1. リハビリテーション医学を構造的に捉える。 2. チーム医療の中での理学療法士の役割を知る。 3. 理学療法士として代表的疾患の特性から評価・治療手段について学ぶ。						
成 績 評 価 方 法	定期試験で総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	リハビリテーション医学の概要						山崎康幸
2	障害の評価と治療						
3	脳血管障害の評価と治療						
4	脊髄損傷の評価と治療						
5	神経変性疾患の評価と治療						
6	骨関節疾患の評価と治療						
7	呼吸器疾患の評価と治療						
8	高齢者の転倒予防に関する評価と治療						
履修者へのコメント ※4時間以上の自己学習を要する。 定期試験は後期末に実施する。							
テキスト 授業開講時までに決定する予定である。							
参考書 授業開講時までに必要に応じて提示する予定である。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人体と薬理		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	小島正義
教 育 目 標	【一般目標】 ・リハビリテーションに関連する疾患における薬物・薬理の基礎的な知識を身に付ける。						
	【行動目標】 ・各疾患における代表薬物、作用機序等について説明することができる。 ・薬理学に関連する過去の国家試験を解くことができる。						
成績評価方法	定期試験で判定する。						
回	内容						担当者
1	薬理学の定義、薬の主作用・副作用、薬理学を学ぶ意義等						小島正義
2	薬物の体内の流れ、肝臓の役割、関連国試解説						
3	パーキンソン氏病とその薬、統合失調症とその薬、関連国試解説						
4	認知症とその薬①、関連国試解説						
5	認知症とその薬②、関連国試解説						
6	薬物依存①、関連国試解説						
7	薬物依存②、関連国試解説						
8	慢性関節リウマチとその薬、臨床に出てくる薬、関連国試解説、まとめ						
履修者へのコメント ※4時間以上の自己学習を要する。 ・パワーポイント資料で講義を進めます。・その都度、関連する過去の国家試験問題の解説も行うため、事前の国試対策としても意識してください。・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、必ず前回授業の資料は持ってきてください。							
テキスト シンプル薬理学 改訂第6版 （南江堂）							
参考書 随時、必要に応じて紹介します。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
予防医学と公衆衛生		講義	前期	PT1年	1単位	30時間	仲 眞美子
教 育 目 標	【一般目標】 疾病予防と健康増進の重要性を理解し、これからの専門職として自分の役割を見いだせる 新型コロナウイルス感染症を中心に安全で効果的な専門職のあり方を考える 【行動目標】 ・疾病予防、健康増進の概念、健康づくり施策、健康サービスを説明できる ・公衆衛生分野における自分の役割をを説明できる ・ライフステージに合わせた健康問題の対処法を考えられる						
	成績評価方法 定期試験、提出物により総合的に判定する						
回	内容						担当者
1	総論 ガイダンス、公衆衛生学入門、新型コロナウイルス感染症						仲 眞美子
2	総論 疫学と衛生統計						
3	総論 生活環境と疾病コントロール						
4	総論 ライフサイクルと健康サービス						
5	総論 ライフスタイルと健康サービス						
6	総論 生活習慣病予防						
7	総論 チームで取り組むヘルスプロモーション						
8	総論 公衆衛生とリハビリテーション						
9	各論 保健統計資料の活用 （新型コロナウイルス感染症）						
10	各論 食習慣、食品保健						
11	各論 運動、休養、メンタルヘルス、健康リスク行動						
12	各論 母子保健、学校保健						
13	各論 産業保健、成人保健						
14	各論 高齢者保健、介護予防						
15	各論 QOLを高めるリハビリテーション						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 ・テキスト必携 ・理解を深めるために、ノートを活用して予習・復習をする ・授業中のメモとディスカッションは積極的に ・新聞テレビのマスコミの報道をよく聞いて考える							
テキスト 医療職のための公衆衛生・社会医学 第8版 （テコム） 著：長谷川友紀、長谷川敏彦、松本邦愛							
参考書 国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 編：厚生労働統計協会							

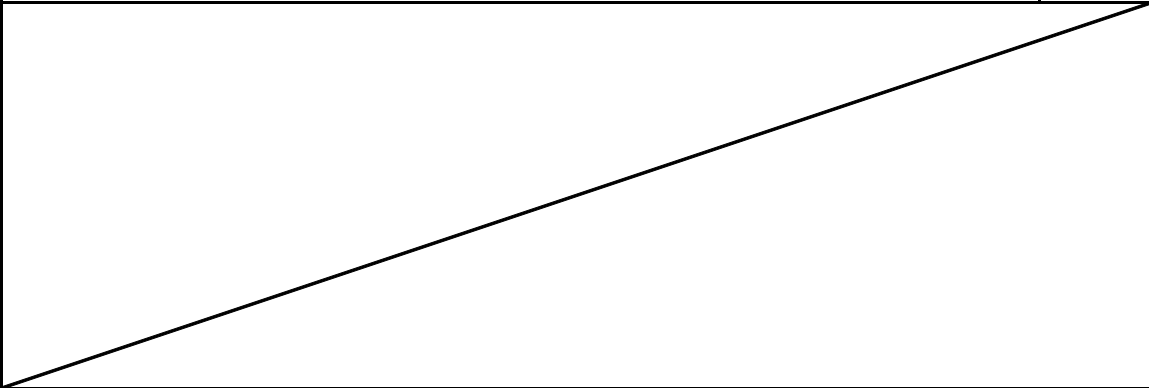
科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
救命救急の基礎		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	山崎洋次
教 育 目 標	【一般目標】 ・救急医療の特徴を理解できる。 ・救急患者の特徴を理解し、救急看護に求められる予測性をもった病態アセスメントができる。 ・災害医療の特徴を理解し、自己の役割やすべきことを明確にできる。						
	【行動目標】 1) 救急・災害医療体制の基本骨格を学習する。 2) 救急医療システムの全体像を理解し、特にプレホスピタルの重要性を説明できる。 3) 主要な疾患の病態を知る。 4) 多様な救急疾患の重症度と緊急度を把握できる。 5) 救急疾患の診断と治療法について述べることができる。特に心肺脳蘇生について。						
成績評価方法	・定期試験で判定する。 ・学院外で開催されている1次救命処置講習（BLS講習・普通救命講習・上級救命講習など）への出席を強く推奨する。						
回	内容						担当者
1	救急医学総論						山崎洋次
2	二次救命処置						
3	重症救急患者管理						
4	内因性救急疾患①						
5	内因性救急疾患②						
6	内因性救急疾患② 外因性救急疾患①						
7	外因性救急疾患②						
8	外因性救急疾患② 災害医学						
履修者へのコメント ※4時間以上の自己学習を要する。 各自、1次救命処置講習（BLS講習・普通救命講習など）への参加を強く推奨する。							
テキスト 指定テキストはない。各講義で資料プリントを配布する。							
参考書 写真と動画でわかる「一次救命処置」改訂3版（発売元：学研プラス）監修：小林正直・石見 拓							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人体と栄養		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	本多友美恵
教 育 目 標	【一般目標】 『人体と栄養』では「栄養の意義」・「栄養素の働き」・「疾患別栄養療法」「ライフステージ別の栄養」について学ぶ。毎日の食事の大切さと栄養の持つ力について、コメディカルとしてのみならず、個々の一人の人として向き合い、自身の食生活とつなげて考える。そして健康の保持・増進や疾病の予防における栄養の役割を正しく理解し、健康な生涯を確保するために適切な食事とはどうあるべきなのかを考えられるようになる。 【行動目標】 毎日の3食の食事で、自身の健康のために不足するもの、過剰なものを考えながら食べることができるようになる。また将来医療現場で患者の栄養状態、リハビリにおける栄養の重要性を理解した医療行為が行なえるよう、基本的な知識を身につける。						
	成績評価方法 定期試験および小テストで評価する						
回	内容						担当者
1	栄養とは・エネルギー						本多友美恵
2	栄養素の基礎知識①（炭水化物、たんぱく質、脂質）						
3	栄養素の基礎知識②（ビタミン、ミネラル）						
4	代謝の仕組み						
5	疾患別栄養①						
6	疾患別栄養②						
7	ライフステージ別栄養						
8	運動と栄養						
履修者へのコメント ※4時間以上の自己学習を要する。 毎日みなさんが食べる食事、それは栄養学の宝庫です！こんなにも生活に密着している科目があるのでしょうか？この講義を通して、食事の大切さを知ってもらいたい！！日々の食生活の疑問もお待ちしています！！ テキスト 栄養の基本がわかる図解事典（改訂版）（成美堂出版） 参考書							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	II 専門基礎分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	保健医療福祉とリハビリテーションの理念
	4単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
リハビリテーション概論		講義	前期	PT1年	1単位	30時間	星野光宏
教 育 目 標	【一般目標】 リハビリテーション（rehabilitation）を正しく理解する。正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。						
	【行動目標】 1. リハビリテーションの概念・歴史、関連専門職の役割・連携、クライアント中心の医療について説明できる。 2. リハビリテーションにおける専門職の役割、現状、今後の課題について説明できる。 3. 理学療法（士）とは何か、理学療法の具体的内容や業務範囲について説明できる。 4. 専門職としての理学療法士に関する臨床的思考過程、理学療法実践過程について説明できる。 5. 理学療法士の教育体系について説明できる。 6. 理学療法士に必要な管理及び運営の方法について説明できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験および提出物・発表などを総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	リハビリテーションとは						星野光宏
2	リハビリテーションの概念・理念・定義						
3	健康・疾病・障害の概念と分類						
4	障害論						
5	廃用症候群とは						
6	リハビリテーションの過程・諸段階						
7	チームアプローチ、ADL・QOLの概念						
8	理学療法の歴史・定義						
9	理学療法の役割・過程						
10	理学療法士に求められる使命と倫理						
11	理学療法士に求められる資質1						
12	理学療法士に求められる資質2						
13	理学療法士の職能						
14	理学療法士に関連する法律						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。							
テキスト シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト 改訂第3版（南江堂）							
参考書 随時紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
職業関連リハビリテーション学		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	関美行
教 育 目 標	【一般目標】 障害者がより良く働くために理学療法士として支援できることを理解できる						
	【行動目標】 地域における職業リハビリテーションにおける理学療法士の役割を説明できる						
成績評価方法	定期試験、提出物で総合的に判断する						
回	内容						担当者
1	地域における職業リハビリテーションとは						関美行
2	職業リハビリテーションにおける理学療法士の役割とは						
3	理学療法のプロセス						
4	障害者就労支援とは、障害者就労支援の必要性とは						
5	障害者就労支援の共通目標						
6	障害者就労支援のポイント						
7	障害者就労支援の実際						
8	就労定着支援のポイント						
履修者へのコメント ※4時間以上の自己学習を要する。							
テキスト							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域マネジメント論		講義	後期	PT2年	1単位	15時間	松田勇樹
教 育 目 標	【一般目標】 介護保険での認定部分やICF、車いすなどマネジメント分野の観点からも理解する。						
	【行動目標】 ・介護保険認定のしくみ、特定疾患、対象者などの面から理解する。 ・ICFの双方向性含む概要について理解する。 ・介護保険適用の貸与・給付の福祉用具について理解する。 ・地域理学療法の各方面について、その法制度についても理解する。						
成 績 評 価 方 法	定期試験および授業毎の小テスト結果にて総合的に判断する。						
回	内容						担当者
1	介護保険①						松田勇樹
2	介護保険②						
3	介護保険③						
4	ICF						
5	車いす①						
6	車いす②						
7	ノーマライゼーションなど						
8	まとめ						
							
履修者へのコメント ※4時間以上の自己学習を要する。							
テキスト							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
多職種連携演習		演習	通年	PT1年	1単位	45時間	平和台病院 オムニバス
教 育 目 標	【一般目標】 チーム医療の概念と基礎知識を学び、これを理解することができる。 リハビリテーションに携わる他職種の業務内容や役割を知り相互に連携に必要な素養を養う。						
	【行動目標】 ・チーム医療の概念を説明することができる。 ・チーム医療を担う各構成員の専門性と役割を説明することができる。 ・チーム医療を担う各構成員とのあるべき連携について説明することができる。 ・チーム医療における理学療法士・作業療法士の業務や役割を説明できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験により判定する。						
回	内 容						担当者
1	急性期病棟(内科)の業務・連携						平和台 病院 オムニバス
2	急性期病棟(整形外科)の業務・連携						
3	地域包括ケア病棟の業務・連携						
4	回復期病棟の業務・連携						
5	外来リハビリの業務・連携						
6	介護部門 デイケアの業務・連携						
7	訪問リハビリの業務・連携						
8	言語聴覚士の業務・連携						
9	NSWの業務・連携						
10	管理栄養士の業務・連携						
11	薬剤師の業務・連携						
12	介護支援相談員の業務・連携						
13	臨床工学技士の業務・連携①						
14	臨床工学技士の業務・連携②						
15	看護師の業務・連携①						
16	看護師の業務・連携②						
17	看護師の業務・連携③						
18	看護師の業務・連携④						
19	看護師の業務・連携⑤						
20	看護師の業務・連携⑥						
21	リハビリテーション科の地域活動						
22	リハビリテーション科と他職種との書類						
23	リハビリテーションマネジメント						
履修者へのコメント ※11.5時間以上の自己学習を要する。 ・リハビリテーション職と他職種それぞれの業務内容・連携を学ぶことで、自身が目指す職種の役割について深く理解できることを期待します。 ・授業の進行度合いによって、講義内容及び順序を変更することがある。							
テキスト ・なし(講義内で適宜資料配布を行う)							
参考書 ・講義内で、必要に応じて紹介をする							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	III 専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	基礎理学療法学
	6単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
障害評価学Ⅰ		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	長岡洋平
教 育 目 標	【一般目標】 ・評価実習に向けて各検査の意義と繋がりを理解する ・医療人として基本的なコミュニケーション能力・判断力・態度を身につける 【行動目標】 ・神経系理学療法に必要な検査測定手技・医療面接の技能習得を目指す						
	成績評価方法 ・OSCE(objective structured clinical examination:客観的臨床能力試験) ・OSCEと定期試験（筆記）で総合的に判定する						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション/医療面接とリスク管理/移乗・体位変換誘導						長岡洋平
2	麻痺側運動機能の評価（BRS）						
3	筋緊張検査（触診・被動）/関節可動域検査						
4	感覚検査						
5	腱反射・病的反射						
6	高次脳機能障害						
7	神経系障害と評価項目/症例提示						
8	OSCEトレーニング						
9	OSCE（脳梗塞左片麻痺）						
10							
11	OSCEフィードバック						
12	ADLと障害構造のまとめ（ICF）						
13	運動失調症の検査/症例提示						
14	OSCEトレーニング						
15	OSCE（運動失調症）/授業のまとめ						
16							
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 実習では、適切な検査測定を行なうことだけでなく、学生として正しい接し方や心理的配慮、誘導ができることも大切です。OSCE（客観的臨床能力試験）による模擬患者への演習を通して、正確な検査技術の他、態度や患者対応などについても指導していきます。							
テキスト ・PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 理学療法評価学 金原出版株式会社 ※毎回、授業プリントあり							
参考書 ・標準理学療法学 神経理学療法学 医学書院 ・ベッドサイドの神経の診かた 南山堂							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
障害評価学Ⅱ		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	岡野良介
教 育 目 標	【一般目標】 整形分野での各評価の意義を理解し、実際の臨床場面での評価の繋がりについて考察する。医療人として適切な態度、臨床場面でのリスク管理について理解し、身につける。 【行動目標】 整形分野における疾患の病態、理学療法評価について列挙し、具体的に述べることができる。整形分野での各病態を理解し、適切な評価方法を選択し実施できる。実際の臨床場面を想定し医療人としての適切な態度・接遇を実施できる。						
	成績評価方法 定期試験および実技で総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション 足関節疾患 整形外科テスト						岡野良介
2	足関節疾患 機能評価と整形外科テスト						
3	膝関節疾患 機能評価と整形外科テスト						
4							
5	股関節・体幹 機能評価と整形外科テスト						
6							
7	肩関節疾患 機能評価と整形外科テスト						
8							
9	頸部疾患 機能評価と整形外科テスト						
10							
11	肘・手関節 機能評価と整形外科テスト						
12							
13	各疾患に対する基本動作観察～分析（下肢整形外科疾患）						
14							
15	各疾患に対する基本動作観察～分析（下肢整形外科疾患）						
16							
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 ・今まで学習してきた内容を実際の臨床場面と照らし合わせながら授業を進めていきます。 ・臨床にむけての実技課題については授業の進行具合に合わせて基本的な評価項目から選択します。 ・授業の進行具合により上記記載されている予定を変更する場合があります。							
テキスト 理学療法評価学 改訂第6版（金原出版）							
参考書 参考書については授業内で紹介していきます。基本的には整形分野の参考書中心です。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
基礎理学療法学		講義	後期	PT1年	2単位	30時間	岡野良介
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法を科学的に理解するとともに、臨床において効果的な理学療法を実践する上で必要となる基礎知識を身に付ける。						
	【行動目標】 1. 理学療法における基礎知識について、専門用語を用いてまとめられる。 2. 上記内容を文章・口頭説明にて他者へ伝えることができる。						
成績評価方法	筆記試験を70%、授業内小テストの合計点を30%とし総合的に判断する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション						岡野良介
2	筋力低下						
3	関節拘縮						
4	疼痛						
5	骨折						
6	浮腫						
7	創傷・褥瘡①						
8	創傷・褥瘡②						
9	身体の制御機能①(正常運動)						
10	身体の制御機能②(運動麻痺、不随意運動、筋緊張異常)						
11	身体の制御機能③(協調運動障害、平衡機能障害、姿勢反射障害)						
12	感覚障害						
13	認知機能低下						
14	高次脳機能障害						
15	心肺機能低下						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 ・小テストを定期的を実施する。 ・授業の進行度合いによって、講義内容及び順序を変更することがある。							
テキスト 理学療法ハンドブック 第1巻 理学療法の基礎と評価 改定第4版（協同医書出版社）							
参考書 必要に応じて、講義内で紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動療法学総論 I		講義	後期	PT1年	1単位	30時間	新井良輔
教 育 目 標	【一般目標】 運動療法学の基礎理論と技術に関して理解する。						
	【行動目標】 ・運動療法学の基礎理論と運動療法の基本的技術に関して理解できる。 ・病態や障害に応じた患者の運動機能について予測することができる。 ・理学療法の基礎となる解剖学、生理学の知識を深め、運動療法に応用するために高い関心を持って臨むことができる。						
成績評価方法	筆記試験、小テスト、提出物で総合的に評価する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション、運動療法の概念						新井良輔
2	運動療法の基礎：関節の構造と運動						
3	運動療法の基礎：筋と筋収縮						
4	運動療法の基礎：運動と呼吸						
5	運動療法の基礎：運動と循環						
6	運動療法の基礎：運動制御と運動学習						
7	関節可動域運動①						
8	関節可動域運動②						
9	筋力増強運動①						
10	筋力増強運動②						
11	持久力増強運動①						
12	持久力増強運動②						
13	協調性運動						
14	痛みに対する運動療法						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 ・今後の臨床実習を鑑み、運動療法の基礎となる知識・技術の臨床への適応について解説する。 ・授業の進行によって講義内容および順序が変更になることがある。							
テキスト なし（各講義で適宜資料配布を行う）							
参考書 標準理学療法学 運動療法学 総論（第4版）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動療法学総論Ⅱ		講義	前期	PT2年	1単位	30時間	田邊康二
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法の中核をなす運動療法を十分に理解するために筋、骨格構造、神経系から運動学などの基礎を理解する。各種障害に対する運動療法の理論と実践に関して学び、運動療法の基礎から応用までの知識を身につける。 【行動目標】 1. 各運動療法の目的と効果を理解する。 2. 基本的な種々の障害に対し適切な運動療法を選択し、実施できる。 3. 運動療法を実施するにあたり、そのリスク管理ができる。						
	成績評価方法	定期試験にて総合的に判断する予定である。					
回	内容						担当者
1	オリエンテーション						田邊康二
2	ストレッチング（上肢）						
3	ストレッチング（下肢）						
4	ストレッチング（体幹）						
5	関節モビライゼーション（上肢）						
6	関節モビライゼーション（下肢）						
7	バランス練習						
8	バランス練習						
9	歩行練習						
10	ポジショニング						
11	下肢関節の術前・術後運動療法（全身調整練習、荷重練習）						
12	下肢関節の術前・術後運動療法（松葉杖歩行練習）						
13	神経筋再教育・神経生理学的アプローチ						
14	筋・筋膜痛に対するリリース法						
15	呼吸器・循環器に対する基本的な運動療法						
16	まとめ						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 関連する分野の解剖学および生理学の予習しておくこと。・授業の進行によって講義内容および実技内容、順序が変更になることがある。・スマホやPC（iPadも含む）は許可がある場合以外に本科目の授業中は利用しないこと。・授業中に教員の指示に従わない場合は退出を指示する場合がある。							
テキスト 必要に応じて資料を配布する。							
参考書 ・理学療法学テキストⅢ「運動療法Ⅰ」第2版 神陵文庫 ・標準理学療法学「運動療法学 総論」第3版 医学書院 など							

	Ⅲ 専門分野
I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	理学療法評価学
	6単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法評価学Ⅰ		講義	通年 (前期)	PT1年	2単位	60時間	星野光宏
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定項目について、その目的・意義・内容・手技を理解し、対象者個々人が持つ障害を理解するために必要な知識の習得を目的とする。						
	【行動目標】 1. 理学療法における評価の位置づけを説明できる。 2. 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定の目的と意義を説明することができる。 3. 検査・測定によって得られた情報がどのような意味を持つのか説明することができる。 4. 障害が出現するメカニズムについて説明できる。						
成績評価方法	筆記試験，実技試験，提出物で総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション/総論 1						星野光宏
2	総論 2						
3	総論 3						
4	総論 4						
5	総論 5						
6	総論 6						
7	形態測定/四肢長周径 1						
8	形態測定/四肢長周径 2						
9	形態測定/四肢長周径 3						
10	形態測定/四肢長周径 4						
11	形態測定/四肢長周径 5						
12	形態測定/四肢長周径 6						
13	関節可動域測定 総論 1						
14	関節可動域測定 総論 2						
15	関節可動域測定 総論 3						
履修者へのコメント ※15時間以上の自己学習を要する。 ・評価学の習得には疾病, 解剖学, 生理学, 運動学の知識が必須であるため、復習を怠らないこと。 ・理学療法士にとって最も基本的で実施頻度の高いものとなるため、授業外でも修練に励むこと。							
テキスト ・理学療法評価学 改訂第6版補訂版（金原出版）							
参考書 ・理学療法ハンドブック 改訂第3版 第1巻 ・随時紹介する							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法評価学Ⅰ		講義	通年 (後期)	PT1年	2単位	60時間	星野光宏
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定項目について、その目的・意義・内容・手技を理解し、対象者個々人が持つ障害を理解するために必要な知識の習得を目的とする。						
	【行動目標】 1. 理学療法における評価の位置づけを説明できる。 2. 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定の目的と意義を説明することができる。 3. 検査・測定によって得られた情報がどのような意味を持つのか説明することができる。 4. 障害が出現するメカニズムについて説明できる。						
成績評価方法	筆記試験，実技試験，提出物で総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	関節可動域測定 総論 4						星野光宏
2	関節可動域測定 総論 5						
3	関節可動域測定 総論 6						
4	関節可動域測定 上肢 1						
5	関節可動域測定 上肢 2						
6	関節可動域測定 上肢 3						
7	関節可動域測定 下肢 1						
8	関節可動域測定 下肢 2						
9	関節可動域測定 下肢 3						
10	関節可動域測定 下肢 4						
11	関節可動域測定 頸部・体幹 1						
12	関節可動域測定 頸部・体幹 2						
13	関節可動域測定 頸部・体幹 3						
14	まとめ 1						
15	まとめ 2						
履修者へのコメント ※15時間以上の自己学習を要する。 ・評価学の習得には疾病, 解剖学, 生理学, 運動学の知識が必須であるため、復習を怠らないこと。 ・理学療法士にとって最も基本的で実施頻度の高いものとなるため、授業外でも修練に励むこと。							
テキスト ・理学療法評価学 改訂第6版補訂版（金原出版）							
参考書 ・理学療法ハンドブック 改訂第3版 第1巻 ・随時紹介する							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法評価学Ⅱ		講義	後期	PT1年	2単位	60時間	山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 ①正確な徒手筋力検査法を実施し、検査結果から得られる情報を正しく捉えることができる。 ②基礎知識（筋の起始停止、支配神経等）と検査法の意義を積極的に学習し理解する。 【行動目標】 ①筋力評価の意義、目的、代表的な測定方法を説明する。 ②正確な徒手筋力検査方法（MMT）を習得するべく、積極的な姿勢で参加する。 ③徒手筋力検査法（MMT）に必要な主動作筋を触診する。 ④徒手筋力検査法（MMT）の各検査を正確に測定する。						
	成績評価方法	実技試験50%、筆記試験50%で判定する。					
回	内容						担当者
1	徒手筋力テストの概要						山崎康幸
2							
3	頭部・頸部のMMT						
4							
5	肩甲滞（肩甲骨）のMMT						
6							
7	肩関節のMMT						
8							
9	肘関節・手関節MMT						
10							
11	股関節のMMT						
12							
13	膝関節・足関節のMMT						
14							
15	脳神経支配筋のMMT						
16							
17	下肢 股関節						
18							
19	下肢 股関節・膝関節						
20	膝関節 足関節						
21	下肢 まとめ						
22	体幹						
23							
24	体幹						
25	体幹 まとめ						
26	頸部・頭部①						
27	頸部・頭部②						
28	頸部・頭部まとめ						
29	脳神経支配筋（顔面含む）						
30							
履修者へのコメント ※15時間以上の自己学習を要する。 ・実技の際は規定の服装で望むこと ピアス、アクセサリは不可 ・できれば事前に主動作筋について予習をし、定期的に検査法の復習を行うことが望ましい。							
テキスト 新・徒手筋力検査法 原著 第10版 （協同医書出版社）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法評価学Ⅲ		講義	前期	PT2年	2単位	60時間	北村達夫
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定項目について、その目的・意義・内容・手技を理解し、対象者個々人が持つ障害を理解するために必要な知識の習得を目的とする。						
	【行動目標】 1. 理学療法における評価の位置づけを説明できる。 2. 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定の目的と意義を説明することができる。 3. 検査・測定によって得られた情報がどのような意味を持つのか説明することができる。 4. 障害が出現するメカニズムについて説明できる。						
成績評価方法	筆記試験，実技試験，小テスト，提出物で総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション，総論（理学療法評価の基礎）						北村達夫
2	各論 一般的評価事項						
3	バイタルサインとフィジカルアセスメント						
4							
5	感覚と疼痛の診かた①						
6							
7	感覚と疼痛の診かた②						
8							
9	筋緊張と反射の診かた						
10							
11	姿勢反射検査						
12							
13	協調性の診かた						
14							
15	片麻痺機能検査①						
16							
17	片麻痺機能検査②						
18							
19	脳神経検査①						
20							
21	脳神経検査②						
22	認知機能検査						
23	高次脳機能検査①（失語の評価）						
24	高次脳機能検査②（失行の評価）						
25	高次脳機能検査③（失認の評価）						
26	バランス検査①						
27	バランス検査②						
28							
29	サルコペニア・フレイルの評価						
30	総まとめ						
履修者へのコメント ※15時間以上の自己学習を要する。 ・理学療法士にとって最も基本的で実施頻度の高いものとなるため，授業外でも修練に励むこと。 ・授業内で実技を行う際は，授業に相応しい身だしなみで臨むこと。 ・授業の進行具合により，授業内容および順序を変更することがある。							
テキスト ・理学療法評価学 改訂第6版（金原出版）							
参考書 ・理学療法ハンドブック 改訂第4版 第1巻 ・その他，随時紹介する							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法画像評価学		講義	前期	PT2年	1単位	15時間	山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 患者情報の一つとして画像・映像があり近年X線・CT・MRIの画像はリハビリ室でも閲覧できるようになり理学療法士もそれらの情報を読み取る知識・技術の習得が必要である。 【行動目標】 1. X線・CT・MRIの基本的な画像を読み方を理解する。 2. 実際の臨床で使用されるX線・CT・MRIの画像をみる。 3. 正常画像と病的画像を比較し評価をする。						
	成績評価方法	筆記試験100%で判断する。筆記は全記述とし、マークシート採点ではない。					
回	内容						担当者
1	画像の基礎（CTの左右上下の見かた）、中枢神経系Ⅰ（出血と梗塞）						山崎康幸
2	中枢神経系Ⅱ（各種出血部位、SAH）						
3	中枢神経系Ⅲ（SCD、Alzheimer、慢性硬膜下血腫）						
4	中枢神経系Ⅳ（中脳動脈閉塞、水頭症）						
5	骨・関節系Ⅰ（骨折）						
6	骨・関節系Ⅱ（関節変形）						
7	骨・関節系Ⅲ（ヘルニア、靱帯損傷）						
8	呼吸器系（肺炎）						
履修者へのコメント ※4時間以上の自己学習を要する。 実習等で求められる基本的な知識を学びながら、国家試験対策も行っていく。							
テキスト リハビリテーション医療に活かす画像のみかた（南江堂）							
参考書							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	Ⅲ 専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	理学療法管理学
	2単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法管理学		講義	通年	PT3年	2単位	30時間	淵橋潤也
教 育 目 標	【一般目標】 医療保険・介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。 【行動目標】 ・医療保険制度、介護保険制度について理解し、説明できる。 ・職場管理（診療記録と書類管理）について理解し、説明できる。 ・職場倫理について理解し、説明できる。						
	成績評価方法 定期試験、提出物で総合的に評価する。						
回	内容						担当者
1	総論／病院の分類と組織 専門職とチーム医療／社会保障 リハビリテーション職種のマネジメント 医療保険制度／介護保険制度 診療報酬の収益構造／権利擁護と職業倫理 組織運営／職場管理 疾患・病期別の理学療法マネジメント／リスク管理 リハビリテーション職種のキャリアデザイン						淵橋潤也
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 管理学は学ぶハードルが高い印象がありますが、そんなことはありません。将来のための必須スキルです！楽しく学びましょう！							
テキスト 講義内配布プリント							
参考書 理学療法管理学、リハビリテーション職種のマネジメント等 多数使用							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	Ⅲ 専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	理学療法治療学
	20単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動療法治療学		講義	通年	PT3年	1単位	30時間	山川貴久
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法に関わる基礎知識・病態生理を理解した上で、関節可動域練習や筋力増強練習をはじめとする様々な運動療法を習得する。 【行動目標】 1. 各運動療法の生理学的作用、実施方法(リスク管理含む)について他者へ説明ができる。 2. 疾患情報・対象者の状態から、科学的根拠に基づいた適切な運動療法を選択できる。 3. 自己・他者・周囲の安全に配慮し、円滑に運動療法を実践できる。 4. 各運動療法の効果判定を適切に行い、必要に応じて修正を行うことができる。						
	成績評価方法	定期試験にて判定する。					
回	内容						担当者
1	運動療法のリスク管理・効力判定、運動療法の実践①(股関節)						山川貴久
2							
3	運動療法の実践②(膝関節・足関節・足根骨)						
4							
5	運動療法の実践③(頭頸部・体幹)						
6							
7	運動療法の実践④(胸郭・皮膚運動)						
8							
9	運動療法の実践⑤(肩関節・肘関節・手関節・手根骨)						
10							
11	疾患別運動療法①(整形外科領域)						
12							
13	疾患別運動療法②(中枢神経領域・内部障害領域)						
14							
15	まとめ						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 実技中心の授業となるため、適切な状態で授業に臨んでください。臨床的な知識と実践技術の2つが揃って、はじめて適切な運動療法が成立するということを授業で体感していきましょう。来年度の臨床現場へ向けて、改めて理学療法の楽しさや勉強の大切さを実感できることを期待します。							
テキスト なし							
参考書 必要に応じて講義内で紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
物理療法治療学		講義	前期	PT2年	1単位	15時間	今井健太
教 育 目 標	【一般目標】 物理療法の基礎を学び、物理療法の目的を解剖学的・生理学的に理解する。 物理療法の作用機序、適応・禁忌・実施上の注意点について理解する。 【行動目標】 物理療法を実施するにあたり、物理療法の効果について他者に分かりやすく説明できる能力を身に付ける。						
	成績評価方法	定期試験で総合的に判定する。					
回	内容						担当者
1	オリエンテーション、物理療法の基礎、リスク管理						今井健太
2	温熱療法I、温熱療法II						
3	寒冷療法 I						
4	水治療法I						
5	電気刺激療法I						
6	電気刺激療法 II						
7	牽引療法、光線療法						
8	マッサージ療法、バイオフィードバック療法						
履修者へのコメント ※4時間以上の自己学習を要する。 ・解剖学的、生理学の基礎的な知識も必要となるため復習を行うこと。 ・授業の進行具合により、授業内容について変更する場合あり。							
テキスト ・標準理学療法学 物理療法学 第5版（医学書院）							
参考書 ・EBM 物理療法学 原著 第4版 ・物理療法マニュアル 医歯薬出版株式会社 ・エビデンスから身につける 物理療法							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
物理療法治療学演習		演習	前期	PT2年	1単位	45時間	今井健太
教 育 目 標	【一般目標】 ・各疾患に対して安全に適切な物理療法を選択できるよう知識を深め理解する。						
	【行動目標】 ・各物理療法の意義や適応・禁忌について具体的に述べる。 ・実技を交え応用力を身に付け、疾患に合わせて適切な物理療法を選択し実施できる。 ・物理療法の効果について他者にわかりやすく説明できる能力を身につけ適切なオリエンテーションを行うことができる。						
成績評価方法	実技試験で総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション、物理療法演習での注意点・リスク管理						今井健太
2	温熱療法（ホットパック、パラフィン）						
3	温熱療法（極超短波療法、超短波療法、赤外線）						
4	温熱療法（超音波療法）						
5	温熱療法の復習（前後評価含む）						
6	寒冷療法（アイスパック、クリッカー）						
7	寒冷療法（アイスパック、クリッカー）						
8	寒冷療法の復習（前後評価含む）						
9	水治療法						
10	水治療法						
11	電気刺激療法						
12	電気刺激療法						
13	電気刺激療法						
14	電気刺激療法の復習（前後評価含む）						
15	牽引療法（頸椎、骨盤）、光線療法（レーザー）						
16	牽引療法、光線療法の復習（前後評価含む）						
17	マッサージ療法						
18	マッサージ療法						
19	疾患別に対する物理療法						
20	疾患別に対する物理療法						
21	疾患別に対する物理療法						
22	疾患別に対する物理療法						
23	試験対策（実技）						
24	試験対策（実技）						
履修者へのコメント ※11.5時間以上の自己学習を要する。 ・解剖学、生理学の基礎的な知識が大切になります。1年生の復習を行うこと。 ・授業の進行具合により、授業内容については変更する場合あり。 ・演習が中心となるため、動きやすい服装（実技着）を準備すること。							
テキスト ・標準理学療法学 物理療法学 第5版（医学書院）							
参考書 ・EBM 物理療法学 第4版 ・物理療法マニュアル 医歯薬出版株式会社 ・エビデンスから身につける物理療法 第1版							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
義肢装具学		講義	前期	PT2年	1単位	30時間	渡邊 司
教 育 目 標	【一般目標】 ・多様化する義肢装具の名称・構造・機能を理解し、義肢装具療法の基礎知識を身につける。 ・リハビリテーション機器の特性を理解する。						
	【行動目標】 ・主要な義肢装具の名称・構造・機能を述べる事が出来る。 ・リハビリテーション機器のチェックポイントを理解し、患者に応じて調整することが出来る。						
成 績 評 価 方 法	【評価対象】 ・定期試験(筆記・実技) 【評価基準】 ・定期試験と実技試験の結果を総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション/切断の原因となる疾患・障害						渡邊 司
2	義手						
3	下腿義足、足部パーツ、ソケット						
4	下腿義足、アライメント						
5	大腿義足、膝継手						
6	大腿義足、ソケット						
7	大腿義足、アライメント						
8	その他の義足						
9	上肢装具						
10	短下肢装具						
11	長下肢装具						
12	膝装具、靴型装具						
13	腰椎装具、胸椎装具						
14	頸椎装具、側彎症装具						
15	その他の装具、歩行補助具、車いす						
16	授業まとめ（国家試験対策含む）						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 脳卒中患者や切断患者に対する理学療法において、義肢装具学は必須の知識です。本講義では義肢装具の基本的な知識を獲得し、医師・義肢装具士等と義肢装具に関して議論できる人材の育成を目指します。 ・授業の進行具合により、授業内容を変更する場合は事前にお知らせします。							
テキスト ・義肢装具のチェックポイント 第9版 ・切断と義肢 第2版							
参考書 ・PT・OTビジュアルテキスト義肢・装具学第1版 ・15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト装具学/義肢学 ※その他の参考資料は授業内で紹介します。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
義肢装具学演習		演習	通年	PT2年	1単位	45時間	渡邊 司
教 育 目 標	【一般目標】 ・わが国における切断に至る原因、切断手技を理解する。 ・疼痛所見および義肢装具使用者の基本動作を理解し、理学療法評価に活かすことが出来る。						
	【行動目標】 ・断端管理の方法を理解し、手技を実践出来る。 ・基本動作時の代償動作を理解し、問題点を列挙することが出来る。 ・義肢装具が基本動作に与える影響を理解出来る。						
成 績 評 価 方 法	【評価対象】 ・定期試験（筆記・実技） ・期限内に提出された課題 【評価基準】 ・定期試験、実技試験、提出課題の結果を総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション/切断部位の選択と手技、価値域						渡邊 司
2	断端管理方法、弾性包帯の巻き方、断端拘縮の予防方法						
3	浮腫の生じやすい環境、一般的理学療法評価（形態測定・断端評価）						
4	コンプレッション値、断端測定、MMT, ROM						
5	運動療法の種類、ADL						
6	アライメント調整方法、平行棒の使い方						
7	アライメント調整方法（実技）						
8	階段昇降、医療保険制度						
9	装具が与える影響、処方時の判断基準						
10	運動学習、KAFOを使用した装具療法						
11	CPGとは、KAFOを用いた歩行介助ポイント						
12	KAFOからの脱却						
13	AFOの働き、合併しやすい症状						
14	上肢装具、AFOを用いた歩行介助						
15	装具歩行の動作分析①						
16	装具歩行の動作分析②						
17	義肢装具士による特別講義						
18							
19	装具歩行の動作分析③						
20	装具歩行の動作分析④						
21	下腿切断患者の歩行分析①						
22	下腿切断患者の歩行分析②						
23	授業まとめ（国家試験対策含む）						
24	授業まとめ（国家試験対策含む）						
履修者へのコメント ※11.5時間以上の自己学習を要する。 ・わが国の超高齢社会に伴い、臨床現場において切断患者のリハビリテーションに携わる機会は珍しくありません。将来の臨床現場で苦手意識を持たないように、本講義にて学びを深めていきましょう。 ・授業の進行具合により、授業内容を変更する場合は事前にお知らせします。							
テキスト ・切断と義肢 第2版 ・義肢装具のチェックポイント 第9版（医学書院）							
参考書 ・PT・OTビジュアルテキスト義肢・装具学 第1版 ・15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト装具学/義肢学 ※その他の参考資料は講義内で紹介します。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
日常生活動作治療学		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	田邊康二
教 育 目 標	【一般目標】 疾患別に生じる障害が日常生活活動に与える特徴を学び、治療に活用する。 【行動目標】 1. 健常人の日常生活活動（ADL）に必要な身体的条件を学ぶ。 2. 代表的なADLの評価内容を理解する。 3. 障害によるADL上の問題点を理解する。						
	成績評価方法	定期試験にて総合的に判断する予定である。					
回	内容						担当者
1	オリエンテーション						田邊康二
2	ADLとQOLの概念、生活関連動作、セルフケアについて						
3	ICF分類について						
4	基本姿勢、基本動作						
5	基本動作①（寝返り動作、起居動作、立ち上がり、移乗動作、移動動作など）						
6	ADL動作①（食事動作、整容動作、排泄動作）						
7	〃 ②（入浴動作、更衣動作）						
8	ADL評価①（Barthel Index、FIM、Lawtonの尺度、老研式活動能力指標、DASC-21、Katz Indexなど）						
9	疾患別ADL①（骨関節疾患①：変形性股関節症、変形性膝関節症）						
10	〃 ②（骨関節疾患②：大腿骨頸部骨折術後）						
11	〃 ③（骨関節疾患③：腰部椎間板ヘルニア）						
12	〃 ④（骨関節疾患④：肩関節周囲炎）						
13	〃 ⑤（脳血管疾患①：脳梗塞、脳出血）						
14	〃 ⑥（神経筋疾患①：パーキンソン病）						
15	〃 ⑦（神経筋疾患②：失調症）						
16	〃 ⑧（呼吸器疾患：COPD）						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 - 各疾患の病態についてあらかじめ学習しておくこと。 - スマホやPC（iPadも含む）は許可がある場合以外に本科目の授業中は利用しないこと。 授業中に教員の指示に従わない場合							
テキスト - 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版（医学書院） - 必要に応じて資料を配布する。							
参考書 特になし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
中枢神経疾患理学療法治療学Ⅰ		講義	前期	PT2年	2単位	60時間	北村達夫
教 育 目 標	【一般目標】 中枢神経障害は、理学療法の対象となる頻度が高い疾患である。その理学療法実施の前提となる中枢神経に関わる知識を整理するとともに、理学療法との基礎的な関係や意義を理解する。 【行動目標】 1. 神経系および中枢神経系の構造と機能を理解する。 2. 脳血管障害の特徴について理解する。 3. 脳血管障害のリスク管理が実施できる。 4. 脳血管障害に関わる基本的な評価が実施できる。						
	成績評価方法	筆記試験，実技試験，小テスト，提出物で総合的に判定する。					
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、中枢神経疾患理学療法総論						北村達夫
2							
3	中枢神経系理学療法の基礎知識						
4							
5	運動と感覚の中枢機能と構造						
6							
7	脳損傷の定義と病態、脳の損傷とその回復						
8							
9	脳血管障害における医学管理						
10							
11	脳血管におけるリハビリテーションのながれ						
12							
13	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴						
14							
15	脳血管障害後片麻痺に対する評価						
16							
17	脳血管障害の画像評価						
18							
19	脳血管障害後片麻痺患者に対する理学療法（１）						
20							
21	脳血管障害後片麻痺患者に対する理学療法（２）						
22							
23	脳血管障害後片麻痺患者に対する理学療法（３）						
24							
25	脳血管障害後片麻痺患者と日常生活活動						
26							
27	脳血管障害と合併症、高次脳機能障害と理学療法						
28							
29	脳血管障害における理学療法の応用						
30							
履修者へのコメント ※15時間以上の自己学習を要する。 ・授業内で実技を行う際は、授業に相応しい身だしなみで臨むこと。 ・授業の進行具合により、授業内容および順序を変更することがある。							
テキスト ・標準理学療法学 神経理学療法学 第2版（医学書院） ・脳卒中機能評価・予後予測マニュアル（医学書院）							
参考書 必要に応じて提示する予定である。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
中枢神経疾患理学療法治療学Ⅱ		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	北村達夫
教 育 目 標	【一般目標】 中枢神経疾患および末梢神経・筋の障害を引き起こす疾患は、理学療法の主要な対象疾患である。それらの疾患の病因、病態生理、症候、診断に関わる知識を理解する。また、理学療法の根底にある神経系に関する知識を整理するとともに、理学療法との関係や意義を理解する。 【行動目標】 1. 神経系および中枢神経系の構造と機能を理解する。 2. 中枢神経障害の原因や障害像、医学的治療方針を説明できる。 3. 理学療法の治療手段である運動療法の意義と基本的な考え方を説明できる。 4. 基本的な理学療法を実施できる。						
	成績評価方法	期末試験、提出物で総合的に評価する。					
回	内容						担当者
1	小脳疾患の理学療法（１）						北村達夫
2	小脳疾患の理学療法（２）						
3	小脳疾患の理学療法（３）						
4	中枢変性疾患（パーキンソン病）の理学療法（１）						
5	中枢変性疾患（パーキンソン病）の理学療法（２）						
6	中枢変性疾患（パーキンソン病）の理学療法（３）						
7	中枢変性疾患（多発性硬化症）の理学療法（１）						
8	中枢変性疾患（多発性硬化症）の理学療法（２）						
9	中枢変性疾患（筋萎縮性側索硬化症）の理学療法（１）						
10	中枢変性疾患（筋萎縮性側索硬化症）の理学療法（２）						
11	末梢神経疾患（ギランバレー症候群）の理学療法（１）						
12	末梢神経疾患（ギランバレー症候群）の理学療法（２）						
13	神経筋接合部疾患（重症筋無力症）の理学療法						
14	その他（正常圧水頭症）の理学療法						
15	その他（頭部外傷、脳腫瘍など）の理学療法						
16	まとめ						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 ・授業の進行によって講義内容および実技内容，順序が変更になることがある。 ・中枢神経に関する生理学、解剖学について、復習および当該科目の予習を行い、授業に臨むこと。							
テキスト ・標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第2版（医学書院） ・授業内でもプリント配布予定							
参考書 ・病気がみえる vol.⑦脳・神経 MEDIC MEDIA ・脳卒中理学療法の理論と技術 MEDICALVIEW 他							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
骨・関節疾患理学療法治療学		講義	前期	PT2年	2単位	60時間	山川貴久
教 育 目 標	【一般目標】 基本的な運動器疾患(骨・関節疾患)に関する基礎知識を習得する。その上で、各疾患に合わせた理学療法評価・治療概念の理解を深める。						
	【行動目標】 1. 各疾患の病態及び治癒過程を理解し、他者へ説明ができる。 2. 疾患情報や症状・状態から適切な評価項目を選択できる。 3. 運動器疾患における基本的な理学療法プログラムを実施できる。						
成績評価方法	筆記試験を70%、中間テスト30%を総合的に判断する。						
回	内容						担当者
1	組織再生・修復、骨折と脱臼						山川貴久
2							
3	大腿骨骨折(頸部骨折、転子部骨折など)						
4							
5	上肢骨折(上腕骨近位端骨折、橈骨遠位端骨折など)						
6							
7	下肢骨折(脛骨近位端骨折、膝蓋骨骨折など)						
8							
9	脊椎圧迫骨折						
10							
11	変形性股関節症						
12							
13	変形性膝関節症						
14							
15	変形性関節症の手術療法、術後対応						
16							
17	肩関節疾患(肩関節周囲炎、腱板断裂)						
18							
19	頸部疾患(頸椎症性脊髄症・神経根症、後縦靱帯骨化症など)						
20							
21	腰部疾患(椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離症など)						
22							
23	脊椎の手術療法、術後対応						
24							
25	膝関節疾患(靱帯損傷、半月板損傷)						
26							
27	足関節疾患(足関節捻挫、アキレス腱断裂)						
28							
29	関節リウマチ						
30							
履修者へのコメント ※15時間以上の自己学習を要する。 ・授業内で実技を行う際は、授業に相応しい身だしなみで臨むこと。 ・授業の進行度合いによって、講義内容及び順序を変更することがある。							
テキスト なし							
参考書 ・標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学(医学書院) ・その他は必要に応じて講義内で紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内部障害・呼吸器理学療法学治療学		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	山川貴久
教 育 目 標	【一般目標】 内部障害に対する理学療法の臨床的意義と実際の展開方法を理解し、対象者に理学療法評価と運動処方ならびに理学療法介入が実施できるようになる。						
	【行動目標】 1. 内部障害の病態及び治癒過程を理解し、他者へ説明ができる。 2. 疾患情報や症状・状態から適切な評価項目を選択できる。 3. 疾患情報や症状・状態から適切なリスク管理方法を把握できる。 4. 予後を見据えた理学療法・環境調整を実践できる。						
成績評価方法	定期試験で総合的に評価する。						
回	内容						担当者
1	呼吸理学療法学総論						山川貴久
2	呼吸不全の病態(拘束性・閉塞性換気障害)						
3	呼吸機能評価①(フィジカルアセスメント)						
4	呼吸機能評価②(呼吸困難、運動耐用能、栄養状態、ADL・QOLなど)						
5	呼吸機能評価③(スパイロメトリー、フローボリューム曲線、ガス分析)						
6	呼吸理学療法の基本的介入①(コンディショニング)						
7	呼吸理学療法の基本的介入②(筋力・持久力の維持向上)						
8	呼吸理学療法の基本的介入③(ADL・QOLへのアプローチ)						
9	疾患別呼吸理学療法の進め方①(COPD)						
10	疾患別呼吸理学療法の進め方②(気管支喘息)						
11	疾患別呼吸理学療法の進め方③(間質性肺炎・誤嚥性肺炎)						
12	疾患別呼吸理学療法の進め方④(外科手術後)						
13	酸素療法						
14	人工呼吸療法と吸引						
15	がんの理学療法						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 ・授業内で実技を行う際は、授業に相応しい身だしなみで臨むこと。 ・授業の進行度合いによって、講義内容及び順序を変更することがある。							
テキスト Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学（メジカルビュー社）							
参考書 必要に応じて授業内で紹介する							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内部障害・呼吸器理学療法治療学演習		演習	前期	PT2年	1単位	45時間	新井良輔
教 育 目 標	【一般目標】 内部障害に対する理学療法の臨床的意義と実際の展開方法を理解し、対象者に理学療法評価と運動処方ならびに理学療法介入が実施できるようになる。						
	【行動目標】 ・内部障害各疾患の病態を具体的に述べる。 ・病態に応じた適切な理学療法評価や介入手技を選択して実施する。 ・臨床場面を想定し、医療人として適切な態度・接遇を表現する。						
成績評価方法	筆記試験、実技試験、小テスト、提出物で総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、循環器の構造と仕組み						新井良輔
2	運動生理と運動処方						
3	正常心電図と異常心電図①						
4	正常心電図と異常心電図②						
5	バイタル測定①						
6	バイタル測定②						
7	虚血性心疾患の病態						
8	虚血性心疾患の理学療法評価						
9	虚血性心疾患の理学療法介入						
10	心不全の病態						
11	心不全の理学療法評価						
12	心不全の理学療法介入						
13	心肺運動負荷試験の理論と実際①						
14	心肺運動負荷試験の理論と実際②						
15	弁膜疾患の理学療法						
16	大血管疾患の理学療法						
17	末梢動脈疾患の理学療法						
18	糖尿病の病態						
19	糖尿病の理学療法評価						
20	糖尿病の理学療法介入						
21	腎疾患の病態						
22	腎疾患の理学療法評価						
23	腎疾患の理学療法介入						
24	その他の代謝性疾患、まとめ						
履修者へのコメント ※11.5時間以上の自己学習を要する。 ・臨床実習で内部障害領域の対象者に対して、評価や治療プログラムの立案、理学療法介入の実施ができるように学修していきましょう。 ・授業の進行によって講義内容および実技内容、順序が変更になることがあります。							
テキスト Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学（メジカルビュー社）							
参考書 必要に応じて授業内で紹介する							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
小児疾患理学療法治療学		講義	前期	PT2年	1単位	30時間	山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 小児の障害を引き起こす主な疾患の治療を学ぶ。 ＜脳性麻痺・水頭症・二分脊椎・悪性腫瘍・遺伝子疾患（筋ジストロフィー・Down症候群）、自閉症スペクトラム＞ 【行動目標】 ①疫学、予後について説明できる。 ②各疾患に対する小児のリハビリテーションについて説明できる。						
成績評価方法	定期試験（80％）、4回の小テスト（20％）で判定する。						
回	内容						担当者
1	正常発達：粗大運動（遠城寺乳幼児発達検査を中心に説明）						山崎康幸
2	正常発達：微細運動・精神活動・言語活動						
3	小テスト①、運動発達の検査・評価						
4	正常姿勢反射						
5	異常姿勢反射						
6	脳性麻痺（四肢麻痺・両麻痺・痙直型・アテトーゼ型）						
7	脳性麻痺の治療介入						
8	小テスト②、二分脊椎、水頭症の疾患概要						
9	Sharrardの分類、二分脊椎の治療介入						
10	遺伝子疾患、Down症候群						
11	小テスト③、発達障害（自閉症、LD、ADHD、他）、虐待						
12	遺伝子疾患（筋ジストロフィー）						
13	筋ジストロフィーの治療介入、厚生労働省研究班の分類						
14	小テスト④、発達遅滞（遠城寺乳幼児発達検査を中心に展開）						
15	国家試験問題、まとめ						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 小児のリハビリテーションは中枢神経の理解も深まりますので、しっかり身に着けていきましょう。国家試験では言語・精神・社会性の範囲も出題されています。幅広い知識が求められる分野です。							
テキスト シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第3版（南江堂）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
脊髄損傷理学療法治療学		講義	前期	PT2年	1単位	30時間	田邊康二
教 育 目 標	【一般目標】 脊髄損傷の病態を理解し、基本的な評価や理学療法を実施することができる。						
	【行動目標】 1. 脊髄損傷の病態が理解できる。 2. 損傷高位に応じた理学療法評価が実施できる。 3. 損傷高位に応じた理学療法プログラムが立案できる。						
成績評価方法	定期試験にて総合的に判断する予定である。						
回	内容						担当者
1	脊髄損傷の基礎知識①（脊髄の解剖，神経症状など）						田邊康二
2	脊髄損傷の基礎知識②（中心性頸髄損傷、ブラウンセカールなど）						
3	脊髄損傷の理学療法評価①						
4	脊髄損傷の理学療法評価②						
5	脊髄損傷の理学療法評価③						
6	脊髄損傷の合併症①						
7	脊髄損傷の合併症②						
8	損傷高位別（四肢麻痺：C4～C6）の基本動作・日常生活動作①						
9	損傷高位別（四肢麻痺：C6～Th1）の基本動作・日常生活動作②						
10	損傷高位別（対麻痺）の基本動作，日常生活動作①						
11	損傷高位別（対麻痺）の基本動作・日常生活動作②						
12	脊髄損傷急性期の理学療法，リスク管理①						
13	脊髄損傷回復期の理学療法，リスク管理②						
14	脊髄損傷の予後予測①						
15	車椅子の選定と活用①						
16	住宅改修・保険制度①						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 ・脊髄損傷の病態についてあらかじめ学習しておくこと。 ・スマホやPC（iPadも含む）は許可がある場合以外に本科目の授業中は利用しないこと。 ・授業中に教員の指示に従わない場合は退出を指示する場合がある。							
テキスト 必要に応じて資料を配布する。							
参考書 特になし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
スポーツ理学療法学		講義	前期	PT2年	1単位	30時間	岡野良介
教 育 目 標	【一般目標】 スポーツと理学療法の関わりについて理解する。 基礎的なスポーツ障害のメカニズム、理学療法を理解する。						
	【行動目標】 スポーツ障害のメカニズムを把握し基礎的な評価が実施できる。 スポーツ動作から患部のメカニカルストレスを推測することができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験およびレポートなどを総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション 理学療法とスポーツの関わり						岡野良介
2	スポーツ理学療法 概論						
3	スポーツ障害 足関節疾患						
4	足関節疾患の評価と理学療法の実際						
5	スポーツ障害 膝関節疾患						
6	膝関節疾患の評価と理学療法の実際						
7	スポーツ障害 股関節・体幹疾患						
8	股関節・体幹疾患の評価と理学療法の実際						
9	スポーツ障害 肩・肘関節疾患						
10	肩・肘関節疾患の評価と理学療法の実際						
11	アスレティックリハビリテーションとトレーニング						
12	アスレティックリハビリテーションとトレーニングの実際						
13	テーピング						
14	テーピング						
15	頭頸部外傷の評価と救急搬送						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 ・スポーツに関わるための礼節、対応、心構えを含めて学んでいきます。 ・授業の進行によって講義内容および実技内容、順序が変更になることがある。							
テキスト							
参考書 スポーツ理学療法 急性期治療とその技法 文光堂							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合理学療法学Ⅰ		講義	後期	PT1年	1単位	30時間	山川貴久
教 育 目 標	【一般目標】 身体組織(骨・筋・靱帯・神経・血管など)の構造について、触診を通して位置関係を把握する。それらが機能的にどのような意味を示すのかを学習することで臨床応用へと繋げていく。 【行動目標】 - 理学療法における触診の意義・方法を説明できる。 - 触診時のリスクを理解し、対象者の安全に配慮することができる。 - 身体の機能・構造を理解し、理学療法に必要な触診を実施できる。						
	成績評価方法	筆記試験・実技試験を実施し、総合的に判断する。					
回	内容						担当者
1	オリエンテーション(触診方法・安全管理)						山川貴久
2	上肢の触診①(肩甲骨、鎖骨、肩関節)						
3	上肢の触診②(上腕骨、橈骨、尺骨、肘関節)						
4	上肢の触診③(手根骨、手関節、近位手根列)						
5	上肢の触診④(手根骨、中手骨、遠位手根列)						
6	下肢・体幹の触診①(骨盤、大腿骨)						
7	下肢・体幹の触診②(膝蓋骨、脛骨、腓骨、膝関節)						
8	下肢・体幹の触診③(足根骨、足関節、ショパール関節)						
9	下肢・体幹の触診④(足根骨、中足骨、リスフラン関節)						
10	下肢・体幹の触診⑤(頭蓋骨、頸椎)						
11	下肢・体幹の触診⑥(胸椎、腰椎、椎間関節)						
12	下肢・体幹の触診⑦(胸骨、肋骨)						
13	神経・血管の触診						
14	身体の位置関係①(上肢・体幹)						
15	身体の位置関係②(下肢・体幹)						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 実技が中心となるため、授業に相応しい身だしなみで臨むこと。							
テキスト - 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版 (メジカルビュー社) - 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版 (メジカルビュー社)							
参考書 図解 四肢と脊椎の診かた (医歯薬出版株式会社)							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合理学療法学Ⅱ		講義	前期	PT2年	2単位	60時間	山崎康幸 新井良輔
教 育 目 標	【一般目標】 臨床実習（検査・評価・総合臨床実習）に備え、理学療法における一連の臨床思考・臨床推論過程を身に付ける。情報収集、評価結果からの考察、統合と解釈、目標設定や治療プログラム立案、問題点抽出の各臨床思考・推論過程を理解する。エビデンスに基づいた理学療法について理解する。 【行動目標】 探究心をもち自ら教科書や参考書、文献を調べ行動し授業に参加する。 臨床実習で問われる課題に向けて準備する。						
	成績評価方法	授業中の提出書類と内容で判断する。					
回	内容						担当者
1	オリエンテーション、二年生の実習の位置づけ						山崎康幸 新井良輔
2	個人情報保護法、守秘義務について						
3	専門用語の扱い方						
4	先輩のレジュメ添削						
5	カルテ情報から何を読み解くか						
6	カルテ情報 SOAPの読み方、書き方						
7	レジュメの作り方						
8	レジュメの書き出しと基本的な情報収集						
9	レジュメの表の作り方・まとめ方						
10	動作分析・スティックピクチャーの作り方						
11	Barthel IndexとFIMの考え方						
12	ICIDHとICFの考え方、ICFのまとめ方						
13	ゴール設定						
14	理学療法治療プログラム						
15	考察の書き方						
16	オリエンテーション、SOAP・問題解決型記録の概要と作成方法						
17	症例情報（運動器疾患①）をもとに課題作成						
18	症例情報（運動器疾患②）をもとに課題作成						
19	症例情報（中枢神経疾患①）をもとに課題作成						
20	症例情報（中枢神経疾患②）をもとに課題作成						
21	症例情報（内部障害疾患①）をもとに課題作成						
22	症例情報（内部障害疾患②）をもとに課題作成						
23	臨床と研究について①						
24	臨床と研究について②						
25	研究デザインの基礎						
26	文献検索の方法						
27	文献抄読：資料作成						
28	文献抄読：発表						
29	データサンプルとグラフ作図①						
30	データサンプルとグラフ作図②						
履修者へのコメント ※15時間以上の自己学習を要する。 - 臨床実習で問われる課題について学習します。臨床実習に向けて頑張ってください！ - 理学療法士になってからも大切な臨床思考・推論過程について学習します。ぜひ、将来の理学療法士になる自分を想像しながら授業に取り組んでいきましょう。							
テキスト 適宜プリント配布							
参考書 様々な文献、教科書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法治療学研究		講義	後期	PT3年	1単位	15時間	渡邊 司
教 育 目 標	【一般目標】 科学的根拠に基づく医療が求められるなかで、理学療法を科学的視点で検証し形づくることの意義は大きい。本講義では、1. 基礎的な研究デザインを理解すること、2. 統計量の活用の仕方を学ぶこと、3. 簡単な検定方法を実践できることを目指します。 【行動目標】 1. データの要約の仕方を理解し、算出できる。 2. 基礎的な研究デザインの特徴を説明できる。						
	成績評価方法	筆記試験にて判断する。					
回	内容						担当者
1	統計学の基礎						渡邊 司
2	データの尺度・特性値・グラフ						
3	推定と検定の基礎						
4	2標本の差の検定						
5	1標本の差の検定						
6	差の検定						
7	相関						
8	国家試験対策としての研究法						
履修者へのコメント ※4時間以上の自己学習を要する。 統計学の初歩について学習しながら、データの扱い方について学習を進めます。また、国家試験対策として頻出される問題に関しても解説を実施していきます。期末試験では四則演算や百分率、平方根の計算が出来る一般電卓又は事務用電卓のみ使用を認めます。 テキスト 15レクチャーシリーズ リハビリテーション統計学 理学療法学講座 理学療法研究法 参考書 標準理学療法学 理学療法研究法							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	Ⅲ 専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 Ⅲ. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	地域理学療法学
	3単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生活環境論		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	新井良輔
教 育 目 標	【一般目標】 生活環境を物理的環境のみならず、制度的環境、人的環境の視点からも捉え障害者、高齢者が自立した生活ができるための生活環境整備・改善の支援について学習する。						
	【行動目標】 1. 生活環境の壁を理解し、QOLの向上を目指した生活環境整備の基本的知識を知る。 2. 障害者や高齢者のための住宅改修案等が作成できるようになる。 3. 生活環境整備の観点から生活支援の構想を練ることができるようになる。						
成 績 評 価 方 法	グループ発表、定期試験、提出物にて総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、生活環境学の概念						新井良輔
2	生活環境とICF						
3	生活環境と社会保障諸制度①						
4	生活環境と社会保障諸制度②						
5	生活環境の評価①						
6	生活環境の評価②						
7	グループワーク：屋内環境調査						
8	グループ発表						
9	グループワーク：屋外環境調査						
10	グループ発表						
11	グループワーク：模擬症例提示						
12	グループ発表						
13	フィールドワーク：国際福祉機器展2022（@東京ビッグサイト）参加						
14	フィールドワーク：国際福祉機器展2022（@東京ビッグサイト）参加						
15	フィールドワーク振り返り、生活環境論各論（在宅支援サービス・転倒予防）						
16	生活環境論各論（在宅支援サービス・転倒予防）、まとめ						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 授業の進行によって講義内容および順序が変更になることがある。							
テキスト 標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第6版（医学書院）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域理学療法学		講義	後期	PT1年	1単位	30時間	川崎初美
教 育 目 標	【一般目標】 ・地域リハビリテーションを実践するために、地域リハビリテーションの定義・目標・地域に果たす役割を理解し、リハビリテーションの各期(急性期～終末期まで)における関わり方を理解する。						
	【行動目標】 ・地域リハビリテーションに関する事柄を説明することが出来る(地域包括ケアシステム、ＩＣＦ、生活リハビリテーション、訪問リハビリテーション、住宅改修と福祉用具、サービス担当者会議、地域ケア会議)。 ・グループワークをおこなう中で、自分の考えをまとめ、意見を述べる事が出来る(カンファレンス実践、介護予防実践、終末期リハビリテーション、訪問リハ危険予知訓練、地域マップ作り)。						
成績評価方法	定期試験、授業内の小テスト、および提出物で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	訪問リハビリテーションの実際						川崎初美
2	自己紹介 介護保険のはなし 実務で活用する報告書類						
3	地域包括ケアシステム 訪問リハでの危険予知訓練						
4	活動と参加（ＩＣＦを意識したゴール設定）災害時リハ考察						
5	終末期リハビリテーションとは						
6	福祉用具と住宅改修についての理解						
7	介護予防の理解と実践①（基本体操）						
8	介護予防の理解と実践②（転倒予防と認知症予防）						
9	介護予防の理解と実践③（未来の体操開発・働く姿）						
10	介護予防の理解と実践④（地域での予防教室の実際）						
11	生活リハビリの理解（施設系職場での多職種連携と協業）						
12	福祉レクリエーションと高齢者や障がい者の心理						
13	コミュニケーション技術について						
14	ケアカンファレンス実践						
15	地域リハビリテーションの実際 互助活動の作り方実践報告						
16	地域マップ作り 試験に向けての全体復習						
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 ・グループワークでは、積極的に意見交換し、クラスの中での学びを高めていくこと。 ・理学療法士として働くことの心構えができるように、実践者向けの内容としていく。							
テキスト プリントを配布する。							
参考書 行政機関のホームページや各種団体の情報などを、各授業時間に紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域理学療法学演習		演習	後期	PT2年	1単位	45時間	松田勇樹
教 育 目 標	【一般目標】 地域理学療法 の概念、方法、法律について理解する。						
	【行動目標】 ・ 地域理学療法 の一般概念を理解する。 ・ 地域理学療法 に関わる法制度について理解する。 ・ 在宅でのリハビリや理学療法 について理解する。						
成 績 評 価 方 法	定期試験、講義内での小テスト、レポートなどを総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション 地域リハビリテーション総論						松田勇樹
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
履修者へのコメント ※11.5時間以上の自己学習を要する。							
テキスト							
参考書							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	III 専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	臨床実習
	20単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
見学実習		実習	後期	PT1年	1単位	45時間	田邊康二 山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 入学後早期に保健・医療・福祉の現場にいる理学療法士の業務を体験し、理学療法士となる覚悟と関心を早期に高め、その後の学習へ動機づけ、能動的・問題解決的な自己学習態度を身につけさせることを目的とする。また、見学を通し医療・保健・福祉に関わる理学療法士としての態度を身につける礎とする。 【行動目標】 ①専門職として責任ある態度・行動をとることができる。 ②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。 ③守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。 ④学生としての必要な記録と報告ができる。						
	成績評価方法 別紙（見学実習の手引き）参照のこと						
	内 容						担当者
	見学実習 ガイダンス						田邊康二 山崎康幸
	見学実習						全教員
	見学実習 報告会・検討会						田邊康二 山崎康幸
履修者へのコメント ・学内での勉強がどのように臨床現場で活かされているかを体験し、今後の勉強に繋がられることを期待する。 ・実習前及び実習中の感染対策・体調管理を徹底すること。							
テキスト 指定なし							
参考書 指定なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
検査実習		実習	後期	PT2年	3単位	135時間	渡邊 司 岡野良介
教 育 目 標	【 教 育 目 標 】 医療・保健・福祉に関わる理学療法士としての態度を身に付ける。これまでに修得した検査・測定について基本的な技術（説明・同意・導入・聴取・準備）を臨床場面で学び、自己の検査・測定技術の昇華を図ることとする。実習教育者が実施した検査・測定結果を基に、結果の分析・考察・整理する過程の習熟を図るものとする。						
	【 行 動 目 標 】 ①専門職として責任ある態度、行動をとることができる。 ②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。 ③記録から対象者に関する必要な情報を収集できる。 ④検査・測定を実施するための説明・同意・導入を模擬患者に対して実施することができる。 ⑤検査・測定の結果を記録できる						
成 績 評 価 方 法	別紙（検査実習の手引き）参照のこと						
回	内 容						担 当 者
	検査実習 ガイダンス						渡邊 司 岡野良介
	検査実習						全教員
	検査実習 報告会・検討会						渡邊 司 岡野良介
履修者へのコメント ・検査実習に向けて、各自基礎勉強・演習の練習を怠らないこと。 ・実習に対応できる体調管理を行うこと。 ・皆勤で臨めるように準備すること。（自宅では予習・復習を徹底すること）							
テキスト ・指定なし							
参考書 ・指定なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
評価実習		実習	後期	PT2年	4単位	180時間	渡邊 司 岡野良介
教 育 目 標	【 一般目標 】 医療・保健・福祉に関わる理学療法士としての態度を身に付ける。これまでに修得した知識・技術を臨床場面に応用し、対象者の問題を捉えるための評価技術を向上させる。 【行動目標 】 ①専門職として責任ある態度、行動をとることができる。②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。③臨床教育者（CE）の指導の下に、理学療法評価を実施し、その結果の解釈や相互関係を吟味し、分析統合を経て問題点を整理することができる。そして、その問題点に対する適切な目標設定、治療プログラムの立案ができることが望ましい。④守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。⑤学生としての必要な記録と報告ができる。						
	成績評価方法 別紙（評価実習の手引き）参照のこと						
	内 容						担当者
	評価実習 ガイダンス						渡邊 司 岡野良介
	評価実習						全教員
	評価実習 報告会・検討会						渡邊 司 岡野良介
履修者へのコメント 評価実習に向けて、各自座学・実技の練習を怠らないこと。							
テキスト 指定なし							
参考書 指定なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合臨床実習Ⅰ		実習	前期	PT3年	8単位	360時間	山川貴久 新井良輔
教 育 目 標	【一般目標】 保健・医療・福祉に関わる理学療法士としての態度を身につける。これまでに修得した知識や技術を、対象者の問題を解決する臨床過程に応用させることを学ぶ。臨床教育者の指導のもとに、一連の理学療法業務に対応できる能力およびチームの一員としての責任と自覚を培うことを目標とする。 【行動目標】 ①専門職として責任ある態度・行動をとることが出来る。②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し専門職としての人間性を養う。③臨床教育者の助言のもとに、理学療法周辺業務を実施できる。④理学療法評価、治療計画の立案、基本的理学療法実施の過程を、臨床教育者の臨床推論を共有しながら一部実施できる。⑤守秘義務、個人情報の保護について理解・実施する。⑥学生としての必要な記録と報告ができる。						
	成績評価方法 別紙（総合臨床実習の手引き）参照のこと						
	内 容						担当者
	総合臨床実習Ⅰ ガイダンス						山川貴久 新井良輔
	総合臨床実習Ⅰ *20期を2班（前半・後半）に分け、学内実習4週、学外実習4週を実施する。学内実習、学外実習の詳細は別紙参照。						全教員
	総合臨床実習Ⅰ 終了後ガイダンス						山川貴久 新井良輔
履修者へのコメント 臨床実習指導者らの注意・指導を真摯に受け止め、研鑽することが求められる。							
テキスト 指定なし							
参考書 指定なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合臨床実習Ⅱ		実習	前期	PT3年	8単位	360時間	山川貴久 新井良輔
教 育 目 標	【一般目標】 保健・医療・福祉に関わる理学療法士としての態度を身につける。これまでに修得した知識や技術を、対象者の問題を解決する臨床過程に応用させることを学ぶ。臨床教育者の指導のもとに、一連の理学療法業務に対応できる能力およびチームの一員としての責任と自覚を培うことを目標とする。 【行動目標】 ①専門職として責任ある態度・行動をとることが出来る。②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し専門職としての人間性を養う。③臨床教育者の助言のもとに、理学療法周辺業務を実施できる。④典型的な障害像についての理学療法評価、治療計画の立案、基本的理学療法実施、治療プログラム修正の過程一部を、自らの臨床推論を臨床教育者と共有しながら、見守りのもと実施できる。⑤守秘義務、個人情報の保護について理解・実施する。⑥学生としての必要な記録と報告ができる。						
	別紙（総合臨床実習の手引き）参照のこと						
成 績 評 価 方 法	内 容						担当者
	総合臨床実習Ⅱ ガイダンス						山川貴久 新井良輔
	総合臨床実習Ⅱ						全教員
	総合臨床実習Ⅱ 終了後ガイダンス						山川貴久 新井良輔
履修者へのコメント 臨床実習指導者らの注意・指導を真摯に受け止め、研鑽することが求められる。							
テキスト 指定なし							
参考書 指定なし							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	III 専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論	理学療法学特論
	3単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法学特論Ⅰ		演習	通年	PT1年	1単位	45時間	田邊康二 山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 実習や次学年の学習に向けて基礎科目の復習・実技練習を行い、学習方法や実技練習方法を習得する。						
	【行動目標】 1. 周囲の学生とのコミュニケーションを大切にし、積極的にグループ学習へ参加する。 2. 周囲の学生と一緒に知識・技術の向上に努め、自身が得られたものを他者へ説明・伝達ができる。 3. 自己解決が困難な際、教員・友人等に相談し解決することができる。 4. 時間内に学習・習得した成果をまとめて形に残し、日々勉強を継続できる。						
成績評価方法	定期試験で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、基礎科目への取り組み						全教員
2	基礎科目の復習						
3	基礎科目の復習						
4	2年生と顔合わせ、座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
5	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
6	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
7	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
8	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
9	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
10	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
11	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
12	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
13	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
14	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
15	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
16	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
17	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
18	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
19	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
20	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
21	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
22	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
23	座学・実技：2年生と合同練習、座学：基礎科目の復習						
履修者へのコメント ※11.5時間以上の自己学習を要する。 この講義はグループ学習を中心とし、勉強方法及び勉強習慣を養うことを目指します。 限られた時間を大切にし、周囲の学生と一緒に成長出来ることを期待します。							
テキスト 指定なし							
参考書 必要に応じて伝える							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法学特論Ⅱ		演習	通年	PT2年	1単位	45時間	渡邊 司 岡野良介
教 育 目 標	【一般目標】 ・基礎科目の復習や理学療法評価学の実技練習を行いながら、知識・技術の定着を図る。 ・他学年に教える経験を通して、自己・他者理解を深める。						
	【行動目標】 ・講義開始前に説明用資料を作成できる。 ・他者と積極的にコミュニケーションを取ることができる。 ・積極的に実技練習に取り組むことができる。						
成績評価方法	定期試験で総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション/文献検索について						全教員
2	基礎3科目の資料作成準備①						
3	基礎3科目の資料作成準備②						
4	1年生・2年生顔合わせ						
5	グループ学習（座学・実技）						
6	グループ学習（座学・実技）						
7	グループ学習（座学・実技）						
8	グループ学習（座学・実技）						
9	グループ学習（座学・実技）						
10	グループ学習（座学・実技）						
11	グループ学習（座学・実技）						
12	グループ学習（座学・実技）						
13	グループ学習（座学・実技）						
14	グループ学習（座学・実技）						
15	グループ学習（座学・実技）						
16	グループ学習（座学・実技）						
17	グループ学習（座学・実技）						
18	グループ学習（座学・実技）						
19	グループ学習（座学・実技）						
20	グループ学習（座学・実技）						
21	グループ学習（座学・実技）						
22	グループ学習（座学・実技）						
23	グループ学習（座学・実技）						
履修者へのコメント ※11.5時間以上の自己学習を要する。 ・解剖学、生理学、運動学の基礎的な知識も必要となるため必ず予習を行い、終了後は復習を行うこと。 ・座学、実技練習で学んだ基礎知識、評価方法などの練習は講義内だけでなく講義外でも復習を必ず行うこと。							
テキスト 指定なし							
参考書 指定なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法学特論Ⅲ		講義	後期	PT3年	1単位	30時間	山川貴久 新井良輔
教 育 目 標	【一般目標】 ・国家試験に向けて基礎科目の復習や実技練習を行い、知識・技術の定着を図る。 ・国家試験に出題される問題の傾向を理解する。 【行動目標】 ・これまでの実習で指摘された点を修正することが出来る。 ・国家試験問題の解説を作成することが出来る。						
成 績 評 価 方 法	提出物および定期試験を総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	座学・実技						全教員
2							
3	座学・実技						
4							
5	座学・実技						
6							
7	座学・実技						
8							
9	座学・実技						
10							
11	座学・実技						
12							
13	座学・実技						
14							
15	座学・実技						
16							
履修者へのコメント ※7.5時間以上の自己学習を要する。 座学・実技練習で学んだ基礎知識・評価方法などの練習は授業内だけでなく授業外でも復習を必ず行うこと。国家試験に向けて、各自が自覚を持って取り組んでください。							
テキスト 指定教科書なし。 各担当教職員の指示に従う。							
参考書 各自テーマに合わせた参考書を用意する。							